

2014

今、ここに
いる
喜び
ありがとう



第49回旭川北高等学校同窓会

旭川市中・市高 北高同窓会 総会・懇親会

とき／2014年8月9日(土)午後6時より

ところ／旭川グランドホテル 3階グランドホール【旭川市6条通9丁目】

主催／第49回旭川北高等学校同窓会実行委員会
写真／第38期 西野 朋和

校 歌

mf 明るく普通の速さで

あ た - ら し - き ぶ ん か - の は な
 の さ ん - ら ん と や が て か ほ ら む み
 づ - き - よ - く や ま - む ら さ き に め
 ぐ - り - た - る ま な び の に は よ あ
 ふ る る よ ろ こ び い ざ て を と り て や
 む な き - あ ゆ み に ま こ と を と め む

校 歌

木村五一 作詞
 津田 甫 作曲

一、

新しき文化の華の
 燦爛とやがて薫らむ
 水清く山紫に
 めぐりたる学びの庭よ
 溢れる歡喜いざ手を把りて
 止むなき向上に真理を尋めむ

二、

逞しき腕の力は
 遠つ代の祖に承けたり
 汗あゆるその勤勞の
 成せる郷土豊けき穰
 とこしへ榮行くこの世に生きて
 止むなき教養清純を讃めむ

三、

かぐはしき緑の夕
 白瑤の樹氷咲く朝
 眉秀で魂澄む子等が
 まどろして譽を謳ふ
 見よ見よ祖国の前途は新
 止むなき希望に光明を添へむ

2014

あ・り・が・と・う
喜・び
今、こ・こ・に・い・る



同窓会長あいさつ	1
学校長あいさつ	2
平成25年度会務・会計報告	3
同窓会規約	4
札幌・東京同窓会から	5
第38期恩師の近況	6
見学旅行今昔	9
特集「同窓生の活躍」	13
同窓生から	23
今春の進路状況	25
北高NOW（部活動報告）	26
同窓会役員及び幹事	31
実行委員長・次期当番期あいさつ	33

新たな同窓の絆



北海道旭川北高同窓会長

(北高25期) 尾崎 信彦

旧交を温め、同窓の絆を強めた第48回の同窓会総会で会長の指名を頂き、早いもので一年を迎えようとしています。会長になって早々、東京同窓会、札幌同窓会に出席させて頂きましたが、なにぶん不慣れな会長を同期の役員をはじめ、先輩、後輩役員の方々に支えていただきながら無事に終える事が出来ました。一つだけ心配に思った事は、札幌同窓会は出席者も多く、同窓会総会に負けないくらい充実した会になっているのに比べ、東京同窓会は若い同窓生の出席が殆どなく、出席者も回を追うごとに少なくなっている事です。

個人情報保護法の為、卒業名簿がなく、新たな同窓会記念誌の作製もしておりませんので、住所などが不明で連絡が出来ない状態となっておりますので、これは同窓会本部の今後の課題として考えていきたいと思っております。

さて、現在の旭川北高は、2006年

に進学重視型単位制高校としてスタートして9年目を迎えており、昨年度も京都大学をはじめ、道内外の国公立大学に100名近い現役合格者を出しており、また、難関私立大学にも数多くの合格者を出しております。昨年度は同窓会入会式、卒業式に、そして今年度は入学式に参加させて頂きましたが、後輩たちの活躍は、目を見張るものがあり、私たち同窓生も誇らしく思っております。

今年の同窓会総会のキャッチコピーは、「今、ここにいる喜びーあ・り・が・と・う」ということですが、東日本大震災や韓国の旅客船転覆事故、ナイジェリアの女子学生集団誘拐事件など多くの若者が犠牲になるような、国の内外でいろいろな事件が起きていることを考えると、今私たちが同窓生として集い、会話をしたりして楽しめるのは、今この時間に生きていられるからであり、この喜びに感謝しようと思は理解しました。

戦前戦後の多難な時代を生き抜いてきた先輩達に思いを馳せ、同窓の仲間が新たに手に手を取り合って、組織を強化し親睦の輪を広げていければと願っております。

今年の同窓会総会は、実行委員長の武田要さんをはじめとする38期生の皆さんにお願いし、道北の景気の悪い中精一杯御努力頂いた事に感謝申し上げます。

先にも申し上げましたが、同窓会も若い人の関わりが不足しがちですが、若い人達のコミュニケーションを大切にしたいと思っております。

来年の同窓会総会は、第50回の節目の会であります。若い人達にも積極的に参加して頂けるような会になる様に、同窓会本部はもとより皆様の今後の御支援を頂きます様をお願い申し上げます、御挨拶と致します。

北高の更なる発展を目指して

同窓会の皆様には、日ごろから多くのご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

私は、四月に同じ管内の富良野高校から旭川北高校に異動して参りました。私事で恐縮ですが、私の子供は三人全員が北高でお世話になりました。次男の嫁も北高の同級生ですので、我が家には四人も旭川北高同窓会員が居ることになります。そんな縁の深い本校で勤務できますことに、家族共々喜んで居る次第です。皆様の母校の更なる発展に向けて微力ながら精一杯勤めたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、学校の近況ですが、今年度の生徒の在籍数は全日制七二〇名、定時制七〇名です。最大時、全定併せて十二間口あった本校も、少子化の流れの中で平成



16年から全日制六、定時制一間口となっています。ただ、先日発表された公立高等学校配置計画案では、三年後の平成29年度に全日制で一間口増が盛り込まれました。決定されれば、十数年ぶりに生徒数が増えることになります。

現在の生徒の様子は、全体的に大変落ち着いて、充実した学校生活を過ごしてくれています。全日制では、国公立大学への進学率が増加し、京都大や東北大、東京工業大などの難関国立大や早稲田、慶応などの首都圏の私立大を突破するようになってきています。その一方で、部活動も大変活発で、今年度の部活動加入率は94%という驚異的な数字になっています。運動系では、陸上・テニス・バドミントン・山岳など多の部が全道大会に出場していますし、文化系でも、文芸や演劇

が全国大会への進出を果たしています。

また、定時制では、昨年度は卒業生全員が就職・進学目標を達成しましたし、今年度の卒業予定者も全員の進路実現に向けて資格取得などに全力で取り組んでいます。部活動も定時制通信制体育大会で卓球とバドミントンが全道大会出場を果たしました。授業後の午後9時過ぎからの練習という厳しい条件の中、全国大会出場を目指して頑張っています。

今後とも、地域における北高の役割をしっかりと踏まえ、その期待に応える教育活動を展開して参りたいと思っております。

結びになりますが、旭川北高等学校同窓会の益々のご発展と第49回総会のご盛会をご祈念申し上げます。

北海道旭川北高等学校長 中田 伸次

平成25年度会務報告

平成25年

4月8日	入学式（川島会長、尾崎副会長）
5月11日	役員・幹事長会議（ポスター・チケット配布） 旭川グランドホテル
6月7日	会計監査
同日	第3回役員会（旭川グランドホテル）
7月6・7日	北高等学校祭（同窓会露店参加）
8月10日	第48回同窓会総会（旭川グランドホテル） ゴルフコンペ 学校祭収益金贈呈
9月28日	第1回役員会（旭川グランドホテル）
同日	当番期引き継ぎ会議
10月12日	東京同窓会総会（尾崎会長他新旧役員6名参加）
10月25日	札幌同窓会総会（尾崎会長他4名参加）
12月2日	同窓会入会案内発送

平成26年

1月25日	第2回役員会・各期幹事会・合同新年会（旭川グランドホテル）
2月28日	同窓会入会式（全日制：会長他3名・定時制：会長他2名）
3月1日	卒業式（尾崎会長他3名出席）
4月8日	入学式（尾崎会長出席）
5月10日	役員・幹事長会議（ポスター・チケット配布） （本日）会計監査
6月13日	同日 第3回役員会（旭川グランドホテル）
7月7・8日	北高等学校祭（同窓会露店参加予定）
8月9日	第49回同窓会総会（旭川グランドホテル） ゴルフコンペ 学校祭収益金贈呈
9月	第1回役員会（旭川グランドホテル）
同日	当番期引き継ぎ会議
10月31日	札幌同窓会33回総会（札幌ガーデンパレス） 18時～

旭川北高同窓会平成25年度一般会計決算書

■収入の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	709,552	709,552	0	
2 同窓会費	1,224,000	1,230,000	6,000	
①入会金	516,000	510,000	▲ 6,000	255名 × 2,000円
②終身会費	708,000	720,000	12,000	240名 × 3,000円
3 雑収入	125	214	89	貯金利子
合計	1,933,677	1,939,766	6,089	

■支出の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 総務費	1,230,000	1,165,184	▲ 64,816	0
①事務費	20,000	20,500	500	消耗品費
②会議費	300,000	228,000	▲ 72,000	役員会、幹事長会等開催費
③通信費	36,000	24,285	▲ 11,715	切手、はがき、電話
④印刷費	10,000	10,000	0	会議開催案内状等印刷費
⑤慶弔費	30,000	0	▲ 30,000	香典、生花、弔電
⑥支部活動費	430,000	675,000	245,000	東京・札幌同窓会出席者旅費、活動助成金
⑦学校事務費	20,000	0	▲ 20,000	学校事務局謝礼
⑧後援会費	144,000	0	▲ 144,000	学校後援会費
⑨卒業記念品費	170,000	155,191	▲ 14,809	卒業生記念品
⑩後援会事業費	30,000	30,000	0	学校祭協力費
⑪雑支出	40,000	22,208	▲ 17,792	振込手数料、雑費
2 文化費	320,000	307,750	▲ 12,250	ノースウインド第21号印刷費、活動費
3 予備費	383,677	105,142	▲ 278,535	記念品代（同窓会役員退任者）
合計	1,933,677	1,578,076	▲ 355,601	

■支出決算

(単位：円)

収入額	支出額	残高
1,939,766	1,578,076	361,690

残額361,690円は次年度へ繰越

■平成25年度特別会計決算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		残金
第48回総会準備金返還	300,000	第49回総会準備金貸付	300,000	
北高第14期御祝儀(22名)	205,000	御招待者(北高14期生)会費	105,000	
ストラップ販売(71個)	35,500	ストラップ作成(200個)	81,165	
同窓会総会・懇親会雑収	147,000			
貯金利子	129			
前年度繰越金	627,678			
合計	1,315,307	合計	486,165	

■同窓会資産

(単位：円)

累計額	平成25年度 積立額	平成25年度 支出額	合計累計額	摘要
9,011,711	240	0	9,011,951	積立額は郵便貯金利子

■同窓会記念事業基金

(単位：円)

累計額	平成25年度 積立額	平成25年度 支出額	合計累計額	摘要
1,854,038	200,436	0	2,054,474	積立額は郵便貯金利子と実行委員会より寄付

北海道旭川北高等学校 同窓会規約

●第1章 総 則

第1条 本会は、北海道旭川北高等学校同窓会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて北海道旭川北高等学校の健全なる発展に寄与することをもって目的とする。

第3条 本会は、その事務局を北海道旭川市花咲町3丁目北海道旭川北高等学校に置く。

●第2章 事 業

第4条 本会は、その目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦を図ること。
- (2) 会誌及び会員名簿の発行
- (3) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業

●第3章 会 員

第5条 本会は、次の各号に該当する者をもつて構成する。

- (1) 旭川市立中学校卒業生
- (2) 旭川市立高等学校卒業生
- (3) 旭川北高等学校卒業生
- (4) (1)(2)(3)各号以外(転・退学した者)で、本会に入会を希望する者。

●第4章 顧 問

第6条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会において推挙する。

第7条 顧問は、役員会の諮問に応ずるものとする。

●第5章 役 員

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 若千名
- (3) 会 計 監 査 3名
- (4) 総 務 部 長 1名
- (5) 総 務 副 部 長 若千名
- (6) 会 計 部 長 1名
- (7) 会 計 副 部 長 若千名
- (8) 文 化 部 長 1名
- (9) 文 化 副 部 長 若千名
- (10) 幹 事 長 各期毎1名

第9条 会長、副会長は、総会において会員の中から選出する。

2 会長は、本会を代表し、会務を統理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

第10条 第8条の役員のほか、各期各組から1名ずつ幹事を選出し、各期ごとに幹事長1名及び副幹事長2名を推薦し、会長はこれを委嘱する。ただし、定時制にあつては幹事長のみとすることができ。

2 幹事長は、同期を代表し、かつ統括する。

3 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはこれを代理する。

4 幹事は、各組の取りまとめにあたる。

第11条 会計監査は、総会において会員の中から選出する。ただし、再選を妨げない。

2 会計監査は、本会の経理を監査する。

第12条 各役員任期は、2年とする。ただし、任期満了後でも後任者が決定するまでは、引き続きその任にあたるものとする。

●第6章 総 会

第13条 総会は、定例総会及び臨時総会とし、議決は出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは議長これを決す。

2 定例総会の開催時期は、前年度の定例総会において決定する。

3 定例総会の運営は、各期毎の当番でこれにあたる。

4 臨時総会は、会長が必要と認めるときに、役員会の決定をもつて会長がこれを招集する。

第14条 総会は、次のことを審議する。

- (1) 会務の報告
- (2) 決算の承認
- (3) 規約の改正
- (4) 役員を選出
- (5) その他必要な事項

第15条 本会の役員会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長をもつて構成し、会長がこれを招集する。

2 本会の幹事長会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長及び幹事長をもつて構成し、会長がこれを招集する。

第16条 役員会の議決は、出席者の過半数をもつてし、賛否同数のときは、議長がこれを決する。

第17条 会員は、役員会に出席して意見を述べることができ。

第18条 本会には、次の部会を置き会務を分担する。

- (1) 総務部
- ア 総会及び役員会に関すること。
- イ 規約の改廃に関すること。
- ウ 本会の渉外事務に関すること。
- エ 支部の結成及び支部との連絡調整に関すること。

第19条 本会には、次の部会を置き会務を分担する。

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

第21条 事務局は、若千名の事務員を置き、本会の事務を処理する。

2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第19条 S 50 9. 6 改正

第19条 S 53 9. 2 改正

第19条 S 57 8. 4 改正

第19条 S 58 8. 13 改正

第19条 S 63 8. 7 改正

●第8章 会 計

オ その他庶務一般に関すること。

(2) 会計部

ア 本会の会計に関すること。

(3) 文化部

ア 会誌及び会員名簿の発行に関すること。

イ 会員の親睦を図り、文化厚生活動に関すること。

2 部会には、部長1名、副部長若千名、委員若千名を置く。

3 前項の部長、副部長及び委員は、会長がこれを委嘱する。

第19条 本会の経費は、入会金一、〇〇〇円、終身会費三、〇〇〇円及び寄付金をもつてあてる。

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

第21条 事務局は、若千名の事務員を置き、本会の事務を処理する。

2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

第19条 S 50 9. 6 改正

第19条 S 53 9. 2 改正

第19条 S 57 8. 4 改正

第19条 S 58 8. 13 改正

第19条 S 63 8. 7 改正

第19条 H 4 8. 8 改正

第19条 H 7 8. 12 改正

第19条 H 9 8. 9 改正

札幌支部



同窓会の奇跡

同窓会会長

武田

寛（北高十六期）

旭川北高同窓会札幌支部会長の武田です。昭和四十一年卒です。会長に就任してから二年になるのでしょうか。一昨年の同窓会は札幌ガーデンパレスで開催され参加者が二一〇余名。昨年は、三年に一度の名簿発行の年でもあり、経費削減の思いもあり、例年開催しておりました札幌すみれホテルで開催されました。が、なんと二五〇余名の出席があり、会場はあふれんばかりの盛況でした。実際三十名ほど会場に収容しきれず、会場の外のホワイエに席を設けた次第です。同窓生とは有難いもので、苦情ひとつありませんでした。この場をかりてお詫びとお礼を申し上げます。これはうれしい人数の読み違いで、過去の札幌支部同窓会の新記録だそうです。これもひとえに吉野事務局長のご努力のおかげだと思います。もちろん各期の幹事のご努力があることは言うまでもありません。参加者が増えた要因として考えられる事は、①幹事会が開催日の三ヶ月程前に開催されている。②多数参加した期にワ

インを贈呈している。③校歌を流すなど演出が良い。④総会形式を簡素化して、懇談の時間を長くした。⑤開会の辞が丁寧で、心温まる。⑥若い期の参加者が年々増えてきた（推察するに、事務局長が若い期に参加の呼びかけをしているのではないのでしょうか）等々です。

私、大学の同窓会札幌支部の幹事もやって久しいですが、バブル期のころは二〇〇名を越えておりました。しかし、それ以後、先輩、後輩の繋がりが稀薄になり、さらに、個人情報保護法の施行等により、ここ十年位は参加者が一二〇名と往時の六割位に低迷しております。それが、逆に参加者が増えたことは奇跡に等しいことであると思います。

旭川北高校本部同窓会に招待され参加しておりますが、いつも当番期幹事の皆様の心温まるおもてなしに感謝しております。北高同窓会の永久の繁栄を祈念しております。

東京支部



北高東京同窓会のこと

同窓会会長

山口

哲男（北高十八期）

このたびご推薦を頂き東京同窓会の会長を引き受けさせて頂く事になりました18期の山口哲男と申します。伝統ある東京同窓会を維持・発展させるべく鋭意努力するつもりです。ご指導・ご支援を宜しくお願い致します。

新しい役員は、18期のメンバーが大多数を占めることになりました。18期といえば、戦後のベビーブームの最盛期に生まれ、厳しい生存競争を生き延びてきた世代です。人数が非常に多かったです。か、進んだ分野も幅広く、それぞれに分野で逞しく生きてきた人が多いような気がします。付き合うには面白いメンバーが揃っているのではないかと思います。18期の東京同期会は、活発に活動しており、毎年3回くらいは何らかの会合を開いています。今年も4月に新潟県高田公園への夜桜見学会、5月に昨年亡くなった方を偲びつつ酒を酌み交わす会を開催しました。この活力を同窓会でも發揮しようと思っております。

東京同窓会も、活発に活動していますが、残念ながら参加者数が徐々に減ってきており、昨年は

100名程度の参加にとどまりました。若い方々の参加が期待ほど伸びていないのが現状のようです。この傾向を何とか食い止めたいと考えています。

この間東京同窓会の先輩・同僚・後輩の方々にお会いする機会が何度かありましたが、経験豊富で人間的魅力に溢れた方々に多数お会いすることができ、同窓会活動は大変意義深いことだと改めて思いました。東京だけでは限らないと思いますが、東京同窓会は人材の宝庫だと感じています。

来年開催する東京同窓会は、場所・日程とも決まっています。

皆さん東京付近の方は是非参加して下さい。また東京付近に知り合いの同窓生がいましたら是非お声を掛けて下さい。もちろん東京付近の方でなくても参加は大歓迎です。宜しくお願い致します。

【日時】

2015年10月25日（日曜日）

2時～4時

【場所】

音楽ビオプラザ・ライオン銀座店

学年主任



二十数年を顧みて

後藤 隆 司

此の度は招待状有難うござい
ます。私は北高に十八年勤め平成六
年に退職してから二十年経ち傘寿
を迎えました。当時を振り返ると
私は学年主任をしており全学年に
目を向けて環境づくりをしており
ました。当時の生徒達は、人間性
豊かでマイペースだったと思いま
す。

宿泊研修は日高少年自然の家に
行き、野外活動に役立てようと自
費でピカピカ警報器を買い持参し
ましたが、門限破りが出たのは残
念でした。先生方は酒を飲み指導
員にしかられたことも思い出され
ます。

遠足では宮下君などと話をしな
がら嵐山に向けてサイクリングロ
ードを歩いたこと、佐和田君や南
さんに卓球の指導をしたこと、何
か役に立ちたいと旺文社のラジオ
英語講座を録音し毎朝黒島さん達
に聞かせたこと、武田君は一年五
組の恩田先生のクラスで試験監督
に行った時ジョンウエインの下敷

を見せられファンであると言っ
ていました。卒業時には同窓会幹事
を依頼しましたが当番の会が実現
するのはいつの日かと思いましたが
遂に出来ました。二十数年とは早
いものです。

私の近況をお知らせしますと退
職後すぐ竜谷高、女子商業の講師
をしました。七十過ぎに実業高の
普通科を教えましたが生徒との息
がピッタリで多くの看護系進学を
実現させたことは年の功かと北高
時代のことを反省させられました。
又樹木医の資格をとり、庭まわり
をしたことも楽しみなことでした。

傘寿を迎えた今では自宅近くの公
民館で囲碁の指導をしたり春光台
公園でパークゴルフをしたり教員
のOBの俳句の会に参加したりな
どアンチエイジングに努めていま
す。先と同窓会で詠んだ一句を紹
介します。

秋灯下 散へ子の背に 縄暖簾
最後に皆さんの益々の活躍を祈
り筆を置きます。

3 組



水清く山紫に

村山 知 彦

私は北高には退職までの十九年
間、教員生活の丁度半分をお世話
になりました。第三十四期生と第
三十八期生の六年間担任をしまし
た。このクラスが担任としては最
後でした。学校祭でカーリングの
展示がありました。その頃は殆ど
知られていない競技でしたが、そ
の後オリンピック等で日本が大活
躍する度にクラスのことを思い出
しました。

現在私は七十六歳です。心身と
もに老化が著しいです。高血圧、
膝の関節と腰が限界にきていて行
動も大きく制約されています。少
々のことでも痛みが伴うのが辛い
です。それでも痛みが伴うのが辛い
です。それでもここまで支えてく
れた、親からもらったこの身体に
は充分満足し感謝しています。

最近、「胃がんの疑いがある」
と言われました。「人間わずか五
十年」(「敦盛」より)と言われた
時代に比べると、随分長生きをし
ているので、これ以上この世に執
着することもあるまい、と思いな
がらもがん検で内視鏡検査を受け

ました。画像を私も見ていまし
たが、「大変きれいです。年齢にし
ては珍しいです」と女医さんに言
われました。タバコも酒も止めて
久しいですが、世間との付き合い
も少なく仙人のような暮らしを送
っています。

北高を思い出しますと、「水清
く山紫に…」と大好きな北高の校
歌の一節がメロデーと共に思い浮
かんできます。北高在職中、入学
式や卒業式などいろいろな学校
行事で私も一緒に十八年歌ってき
ました。私は、自分の母校の校歌
は忘れ、今は北高校歌が母校の校
歌です。全校生徒の野球の応援で、
勝ってスタルヒン球場に流れるこ
の北高校の校歌は最高でした。北
高生の「青春」がしっかりとそこに
ありました。晩年になった今、き
らきらと輝いていたあの頃の皆さ
んの顔を時折、懐かしく思い出
しております。

最後になりましたが北高校の益
々のご発展と皆さんのご活躍を心
よりお祈り申し上げます。

2 組



懐かしの
旭川北高等学校

藤見 弘道

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。」

およそ八百年前の鎌倉時代、鴨長明が著した方丈記の書出しの名文である。

教職人生の大半を勤めさせていただいた北高を離れてから二十有余年、北高も大変変わったものがある。木造の校舎から鉄筋コンクリートの建物へと変貌し、私が勤めていた頃の先輩や同僚の教師は当然かも知れないが誰一人として今は北高には居ない。どうも年を取ると懐古的に陥りやすい。私も例外ではない。北高での体育祭、学校祭、見学旅行、そして文武両道の北高であるから進学模試の成

績での一喜一憂、そして、本番での「栄冠」や「次年の栄冠」などなど思い出深い。

学校祭は今は7月実施だろうが、昔は8月末だった。その時期、北海道には生息していないと言われ

たカプトムシが鷹栖町には沢山棲んでいて、それを学校祭の縁日の目玉商品とするため、クラスの生徒を連れて鷹栖の山奥までよく採

りに行ったこともつい先日のように思い出される。又、見学旅行が近づいたある時、一人の生徒が旅行には行かないと言い出す。何故かと聞くと彼は、「可哀相だから

寿司屋の水槽で飼われている旭川中の魚を買って放してやりた

い」と(自分の旅行費用で)……。本当に心優しい生徒がいるものだ、とつくづく感心したものだ

だ。今、彼は如何しているだろう

う……。

冒頭の方丈記の前半は、大地震などの自然災害が記され、災害に対する街の脆弱さ、庶民を顧みない政治など、現代でも通用するよ

うな視点で物事を捉えている。東日本大震災・福島原子力発電所の事故など近年、日本は数多くの災害に見舞われてきた。にも拘らず

原子力発電を推し進め、その廃棄物の処理に最新の科学の力をして

もなお儘ならない現状なのにその付けを後世に残そうとしている。又、暖衣飽食の時代とも言うべき

か、テレビのチャンネルはNHKも民放も四六時中、喰うことはかり流している。昭和48年頃のオイルショック、1990年代初頭頃

からのバブル崩壊による景気の低迷の持続、本来、勤勉で優秀な筈の日本人の一部は何かを忘れて

の初物も採れ、先ずは佛様神様にお供えをし、その後幾つかの野菜で毎日の食卓を賑わしてくれている。雪が降る頃までこの無農薬の野菜の供給が続き、健康にも良いし経済的である。

おかげさまで今のところ大病にかかるともなく、認知症を患うことなく元気で居ります。何とか健康寿命でいたいものだと思います。

当番幹事の北高38期の皆さんは今年には40代半ばの頃かと思われま

す。所謂、中年の働き盛りですね。北高同窓生の皆さん、どうか健康や事故などに十分注意され、世のため人のためそのお力を十分發揮されてください。北高は、生徒にとっても保護者にとっても、又、教員にとっても実に全国一の素晴らしい学校だと思いを寄せつつ筆を擱きます。

7 組



まもなく古稀

宮崎 和夫

昔から苦手な作文ですが、同窓会誌に載っていないければ「ああ、とうとう」と思われるのも癪なので、仕方なく近況でもご報告しようと思います。

定年退職からもう10年近く経つことを考えれば、なんと一年間が短いことか、それだけ単調な毎日を過ごしているのでしょうか。でも、大きな事件(?)もありました。まず一つ目は『電動ノコで指切斷』、これは今思ってもゾッとする事故でした。今も少し不自由ですがそれほど生活に支障はありません。

もう一つは『バイク路外転落』、九死に一生を実感してしまいました。コンマ何秒かの差でこの欄が空欄になるところでした。

考えてみれば一応生活しているのですから、何かにかあるものですね。

思いもしなかった体調の変化もあります。油断しているとメタボで引っかかりそうです。それに高

血圧は風邪で滅多に行かない病院に行った時に指摘されました。何年も受けていなかった健診も特定健診という名のものを初めて受診しました。それにぎっくり腰も経験しました。絶対の自信を持っていた腰だったのに、もろくも敗れ去りました。今のところ薬などのお世話にはなっていないませんが、健康管理には気をつけようと思う今日この頃です。

近年毎日のようにやっていることもありますよ。
SNSを利用した交流です。数年前から写真を良く撮るようになり、適当な写真の投稿サイトを見つけて参加させてもらっています。そのメンバーは高齢者も多いようで気楽にコメントし合えるところが長続きしているところかも知れません。それとフェイスブック、これは写真日記のように利用しています。

こんな調子で今のところ元気に生活しています。

8 組



新しき文化の華の♪

柿本 比佐緒

北高同窓会の招待状をいただき当時の卒業アルバムを見て、時の流れを感じながら懐かしくさまざまに思い出がよみがえってきます。新卒から数えて3校目、30代半

ばで北高に赴任し、すぐに2年6組の担任。今まで歩いてきた高校とは何かが違うと感じながらスタートしたが、北高祭定番の2年生のクラス演劇で記憶に間違いがなければ「鼓動」という作品で最優秀賞獲得。担任としてはまったく何もせず、すべて自分たちで創り上げたすごい生徒たちに感動。

翌年は、3年8組の理系男クラ、個性的でたくましく賢い男たちであった。担任としては、受験に向けて対策を考えるが、学級日誌には模試結果がE判定でも笑い飛ばす文章が書かれていた。共通一次の終わり頃の世代であったと思うが、さすが北高生、それぞれの目指す進路先へ。

この年の卒業式では、今回の実行委員長である武田要君が卒業式

の答辞で事前に答辞文を用意せず、自分の言葉で北高の3年間を語ったのが印象的であった。要らしいエピソードの一つです。

北高では14年間お世話になり、その後、羅臼高、旭川東栄高、上富良野高、北見柏陽高、旭川南高と異動して定年退職。今は旭大高に勤務していますが今年で64歳、高校教育からの潮時と考えています。

当時と今の高校生の違いを問われれば、携帯、スマホという便利な道具出現によって生徒同士の生の人間関係を築く力が弱くなっているような気がします。時代と社会の変化といえはそれまでですが、皆さんの時代にはそれが無かった。北高は、よき生徒、よき先輩教師や同僚教師に恵まれ、楽しく成長させてくれたところです。また、校歌の素晴らしさも忘れられません。

40代半ばに入る38期の皆さんに会えるのを楽しみにしています。



S44年度(1969)

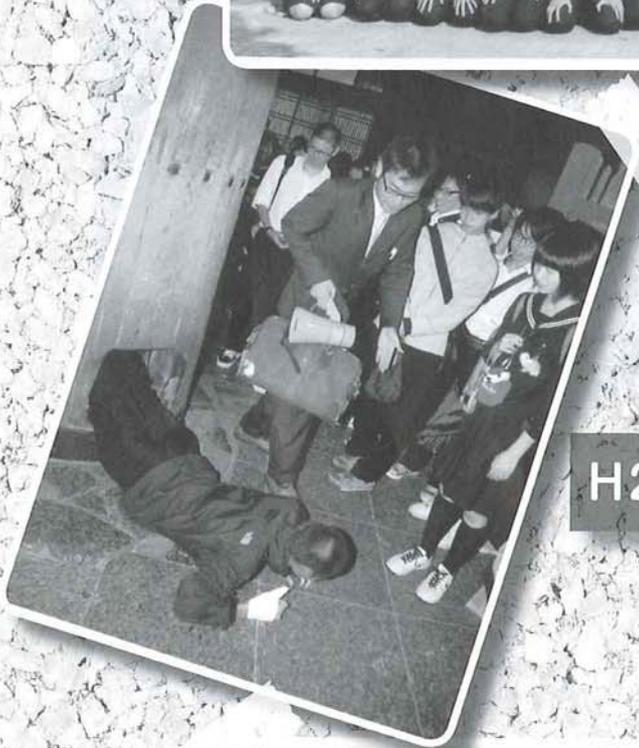


S62年度(1988)



H12年度(2000)





H25年度(2013)



Fリーグで活躍

エスポラーダ北海道
選手

高山剛寛

第55期

たかやま たけひろ



私は、フットサルの日本トップリーグ「Fリーグ」に加盟するエスポラーダ北海道で、選手として活動しています。Fリーグとは、北は北海道から南は大分まで、全12チーム（2014年度）が加盟する日本トップリーグで、私たちエスポラーダ北海道は、Fリーグへの参入を目的に設立された「(仮称)北海道フットサルクラブ」としてスタート。2008年は北海道フットサルリーグに参戦しリーグ全勝優勝を含む5冠達成などの功績が認められ、2009年から念願叶い「エスポラーダ北海道」

としてFリーグに参入しそれから5年間北海道の代表として戦っています。私がフットサルを本格的に始めたのは高校3年生の夏頃でした。北高サッカー部として出場したフットサル大会がきっかけで、旭川で活動するフットサルの社会人チームの方に声を掛けていただき入団。すぐにフットサルの虜になってしまいました。北海道という地域は、冬に雪が降るのでフットサル(室内サッカー)に馴染みが深く、私自身も小学生の頃からフットサルを楽しむに

していた1人で、雪が降って外でサッカーが出来なくなるのがそれほど嫌ではありませんでした。フットサルの魅力は、「激しく攻守が入れ替わるスピーディーな展開」、「狭いピッチだからその巧みな技術」、そして何より「シュートシーンが多い」ことだと思います。まだまだ観るスポーツとしてはメジャーではないですが、そんなフットサル「Fリーグ」が一躍全国の脚光を浴びたのは、日本サッカー界の「キング」こと三浦知良選手がFリーグに参戦した2012年1月



15日の試合がきっかけでした。私が5年間Fリーグで戦ってきたなかで最も印象に残る試合のひとつでもあるのですが、一流の選手として今なお第一線で活躍されている三浦選手と、チームメイトとして同じピッチに立ちたくさんのお客様の前でプレーが出来たことは、私にとって本当に貴重な経験で財産となりました。この試合は、Fリーグホーム&アウェイ観客動員数歴代1位となる5,368人のお客様に足を運んでいただき、フットサルが存在を多くのみなさんに知っていただいた試合となりました。ただこの記録は、今度は自分たちの力で打ち破っていかねば成長はないと思いますし、最近では、小学生からフットサルを専門的にやっている子も増えてきているようなので、サッカーと同じく子ども達が目指す未来の選択肢のひとつになれるよ

う努力が必要だと感じています。また全道各地で応援してくださるみなさんのためにも、毎試合気持ちが入った、見ていて楽しい試合をすることが僕らの使命であると思っていますので、これからも志を高くもって努力していきたいと思えます。

北高出身のみなさんも、もしフットサルを生で見たことがない方は、是非ホームゲーム会場に足を運んでいただき、フットサルの魅力を味わっていただければうれしいです。スピードイヤーでアグレッシブなフットサルで絶対に後悔はさせません！

■高山剛寛さんのプロフィール

1986年11月4日 東京都町田市生まれ

【学歴】

1999年3月 旭川市立北光小学校 卒業
2002年3月 旭川市立北星中学校 卒業
2005年3月 旭川北高等学校 卒業
2009年3月 東海大学（芸術工学部）卒業

【職歴】

2009～2010年 株式会社ジャパンケアサービス
2011～ 社会福祉法人 明日佳

【フットサル歴】

2005～2007年 D.C Asahikawa Futsal Club
2008～ エスポラダ北海道
※2012～ キャプテンを務める。

漫画の魅力

漫画家
まつもとあやか

大原 彩嘉

第53期

おおはら あやか

私は現在札幌でフリーの漫画家として活動しています。

24歳の時に集英社『金のデイアラ賞』でデビューし、2年ほど集英社Cookieという雑誌で少女漫画を発表していました。現在は縁があつて札幌で食についての漫画を描かせて頂いたり、コミッ

クエッセイなどジャンルを問わず執筆活動をしています。

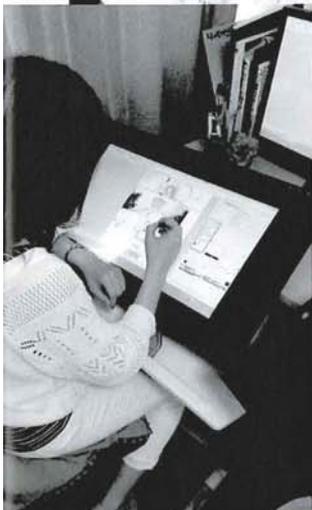
高校生の時から絵が好きだったかというところではなく、美術の成績は良い方ではなかったし勉強も好きではなかったいわゆる落ちこぼれの生徒でした。

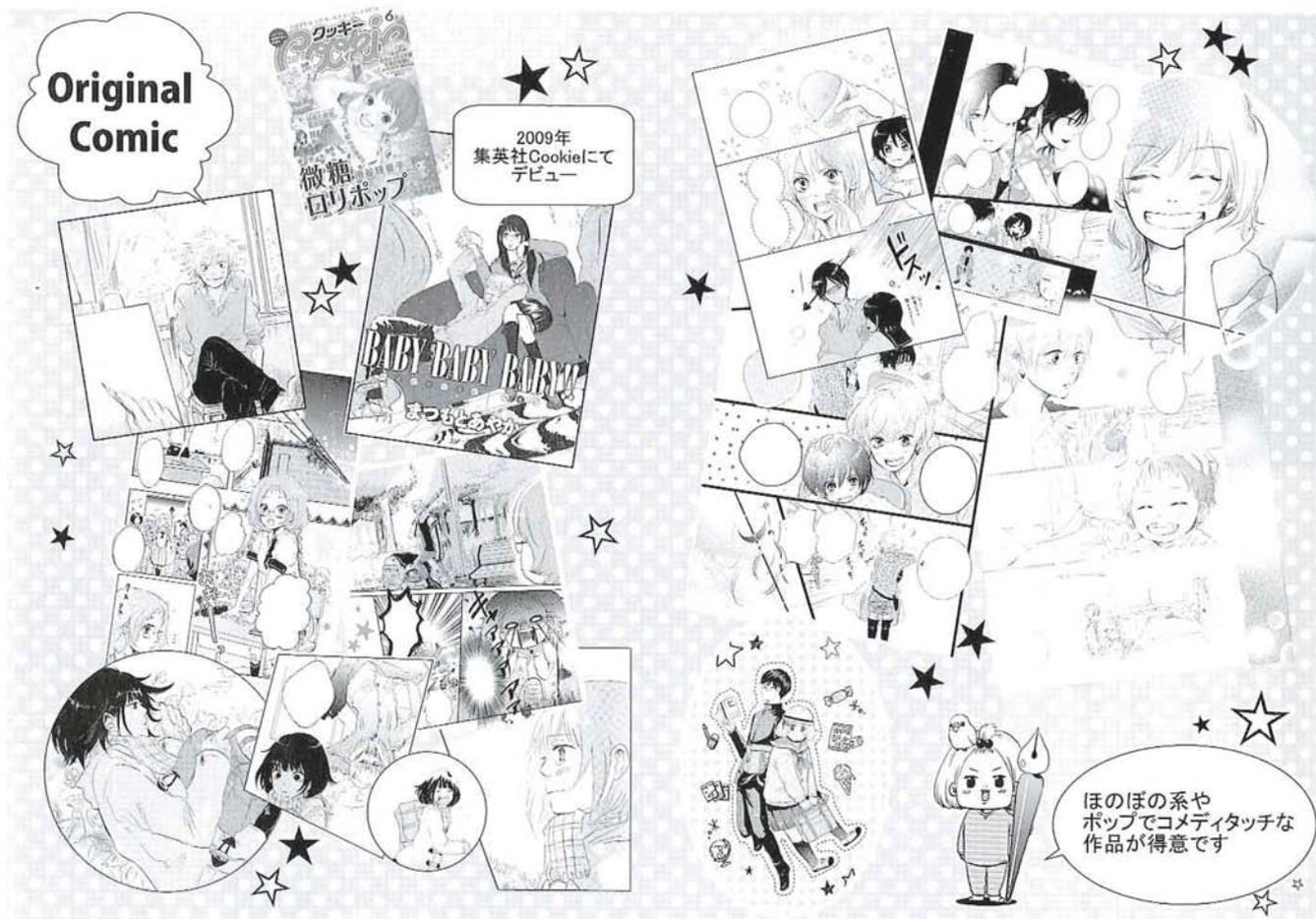
授業中はずばら空想にふけり、ノートに落書きばかりしていましたが、今思えばそんな勉強嫌いだった学校生活が今の自分に繋がっているのかもしれない。

高校卒業後は札幌市内の美容

学校へ進み、一度は美容師を目指しましたが結局すぐに美容室勤務をやめてしまい、中古車ディーラーの受付や事務員などいろいろな仕事を転々としていました。このままではいけないと一念発起し描いた漫画が雑誌で賞をいただき、色々な縁があつて今年で漫画家生活も6年目に突入します。

漫画の魅力はなんといってもその娯楽性にあると思います。手軽に読めるのに、時には人生を変えてしまうほどの感銘を与え





たり。あるときは誰かの生きがいになったり。無限の可能性を秘めているところが私は好きです。

読む側から描く側にまわり、今までのように漫画を純粋に楽しむことができなくなってしまい寂しく思うこともあります。今まで何をやっても続かなかった自分が6年間も続けてこられたのだから、やはり天職なのだろうと最近やっと思えるようになりました。

今までは描いて掲載されるだけで精一杯だったけれど、これからは私にしか出せない持ち味を見つけていくのが目標です。自分のためだけでなく人の喜びのために描けるようになった時、次のステージに進めるのではないかと今からワクワクしています。

北高出身の皆さんも、もし書店で私の作品を見かけたらぜひ手に取ってみてください。

そしてぜひ感想など聞かせていただけると嬉しいです。

■大原彩嘉さんのプロフィール

- 2003年 旭川北高等学校卒業
- 2005年 北海道理容美容専門学校卒業
- 2008年 集英社 金のティアラ賞 銀賞でデビュー
- 2011年 初コミックス BABYBABYBABY!! 発売
集英社クッキーにて
チア男子!! (原作:朝井リョウ)連載
(現在連載終了 1~4巻発売中)
- 2013年 札幌乙女ごはん第一弾発売
札幌市に暮らしながら食に関する漫画作品を執筆中

このたびはこのような素晴らしい企画にお声をかけていただきありがとうございます。今後とも皆様の御活躍と北高のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。



日中友好のかけはし

ベクトルチャイナ総経理

板屋 美幸

第39期

いたや みゆき



私は中国の上海でPRの仕事をしています。上海に住み始めてからは、今年で17年になります。

そもそも上海に来た理由は、日中交換留学生として上海外語大学へ留学するためでした。

高校時代から外の世界で様々なものを経験し国際的な人間になりたいと思っていたので、就職も若いころから海外を見られるという動機で航空会社を目指しました。入社当時は希望に燃え、一生この会社で勤め上げようと思っていたのですが、次第に仕事に物足りなさを感じ、実際に自分の手でビジ

ネスをしてみたいという欲求にかられ、興味は海外へ、特にアジアの地域でのビジネスへ向かうようになりました。そんな中、偶然見つけたのが日中友好協会の交換留学プログラムでした。最終面接を受けた時の事は今でも忘れません。「あなたの中国留学の目的はなんですか？」との面接官の問いに「日中友好の懸け橋になるような人物になりたいからです」と、次の瞬間答えていました。自分でも言った言葉の大きさに少し驚いたことを覚えています。

地を踏んでからは、ひたすら勉強と仕事の経験を積むために邁進しました。最初に門をたたいたのは上海のテレビ局。目的は日本語番組「中日の橋」で実習生として番組制作の仕事をすることでした。その後テレビ局で培った経験や人脈をきっかけに、フリーでロケの撮影コーディネーターとして日本のテレビ局や映画会社の仕事を請け負うようになりまし。日本で上映される大作や有名な俳優さんとの仕事はそれなりにやりがいのあるものでしたが、日本のメディア





のフィルターを通した中国感というものに一種の疑問の様なものを感じ始め、仕事のスタイルを変えようと思いました。

考えた結果、中国にいる日本人として中国人の人たちに日本の良

さ発信する仕事の方がより意義があると思いい、2005年に日本の企業や観光地などを宣伝するPR会社を立ち上げました。ワンルー

ムの小さなオフィスで始め、仕事の内容は日文化交流イベントや、

日本の食品をアピールする物産展の他、日本企業の新商品を発表する記者会見など、宣伝広報に関することなら何でもやります。企業やブランドの知名度やイメージをアップさせるのが私たちのミッションですが、中国において日本の企業がこの目的を達成するのは簡単なことではありません。起業から今までで二度の反日デモを経験し、その度に仕事は難しい状況に直面してきました。05年のデモ発生時は、日本食品PRイベントを目前に控えイベントを中止せよとの脅迫電話がある中、警備に細心の注意を払いながら実施したり、12年の尖閣諸島国有化反対デモの時は、日本企業の記者会見が開始直前に中止に追いこまれたり、日中関係が緊張する度に日本関連の報道や宣伝活動は制限を受けることとなります。

勿論つらいことばかりではなく、やりがいを感じることもの方がむしろ多いのも事実です。2010年の上海万博の際には日本館で行わ

■板屋美幸さんのプロフィール

- 1989年 旭川北高等学校卒業
- 1997年 交換留学生で上海外国語大学へ留学
- 2005年 PR会社シーズコミュニケーション設立
- 2006年 日経ウーマンオブザイヤー受賞 (キャリアクリエイト部門第8位)
- 2010年 上海万博日本館で「北海道の日」開幕記者会見開催
- 2011年 自社をベクトル社に営業譲渡、ベクトルチャイナ総経理となる

現在に至る

れた北海道ウィークで、開幕の記者会見の仕事をする機会に恵まれました。北海道人として、中国の人々に北海道をアピールするとうこの上なく名誉な仕事ができ、この時はPR業をやっている本当に良かったと思いました。

日本と中国は歴史的にも経済的にもすでに切っても切り離せない間柄です。政治外交レベルはどうであれ、民間のレベルではお互いの良さを認め合えるコミュニケーションが今後必要です。かつて自分が口にした「日中の懸け橋」という言葉の重さと実現の難しさをひしひしと感じながら、隣国でチャレンジし続ける毎日です。

人生を変える『かたづけ』とは？

スツキリ・ラボ代表
かたづけ士

小松 易 第38期

こまつ やすし

「かたづけ士」って何を
する仕事なんですか？

2005（平成17）年に、長年勤めた会社を「片づけを仕事にする」と周りに宣言し、辞めてから早9年。私の「かたづけ」の原点は、大学時代に交換留学で訪れたアイルランドにあります。3ヶ月という短い期間でしたが、これまでの人生を振り返っても、いまだに3本の指に数えられる充実した時間でした。

その留学生活の最終日、荷造りをしようとホーム

ステイ先の部屋のベッドの下からトランクを引っ張り出した時に、一つ気づいたことがあります。それは、留学期間の3ヶ月、トランク一つの荷物で生活できていたということでした。

もしかしたら、人生はモノの量が多いことではなく、



むしろモノが少ない方が充実度や満足度が高まるのではないかとそんなアイルランドでの経験が「かたづけ士」という仕事の原点なのです。

「かたづけ」が苦手だった
北高生時代

北高在校時代の私は、今振り返ると、とてもメンタルが弱い学生でした。当時はそれが恥ずかしくて自分で認めるのも嫌でした。北高ではサッカー部に3年間在籍していましたが、技術的な問題以上にとってもチャンスに弱く何



度となくゴールを外すことがありました。今振り返ると、いつも練習や試合中に出てくるプレッシャーを処理しきれず、頭の中がごちゃごちゃして何かが整理できていなかったのかもしれない。そして、私の部屋はというと、自分の頭の中と連動するように、趣味の映画のビデオテープや音楽のカセットテープが大量に詰めこまれていました。サッカーや勉強より、いつもそれらで頭がいっぱいでした。あー、あの時に、「かたづけ士」に会っていればと思います。（笑）



「モノのかたづけを通じて、人生を変える仕事」

「かたづけ士」の仕事を一言で表すと「モノのかたづけを通じて、人生を変える仕事」と言えます。片づけを習慣化するために自力で片づけに取り組んでもらいます。ですから、私はお客様の物には、いっさい触れません。当初は、お客様の9割は女性で、個人の家や部屋の片づけをアドバイスしていました。次第に会社からの依頼が多くなり、ビジネスの場に片づけが必要になってきました。逆にいまは、9割の仕事が会社の経営者や企業での研修や講演、コンサルティングになっています。

片づけることで、本当に大切な「モノ」が見えてくる場合があります。そして、同時に大切にしている「コト」に気づきます。余計なモノが排除されて、本当に大切なモノが浮かび上がってきます。

■小松易さんのプロフィール

～日本初の「かたづけ士」～

- 1969年（昭和44年）北海道留萌市生まれ
- 1988年（昭和63年）旭川北高等学校卒業
- 1992年（平成4年）アイルランド交換留学
- 1993年（平成5年）高崎市立経済大学卒業
- 2005年（平成17年）株式会社フジタ退社
- 2005年（平成17年）かたづけコンサルティング「スッキリ・ラボ」開業
- 2009年（平成21年）テレビ東京「ガイアの夜明け“そうじ”で不況突破～業績回復に秘策あり～」に取り上げられる。
- 2010年（平成22年）「たった1分で人生が変わる かたづけの習慣」（中経出版）が30万部を超えベストセラーとなる。2014年6月現在、国内出版書籍18冊、海外翻訳本は中国語、台湾語、韓国語、タイ語など9冊に及ぶ。現在、全国の中小企業を中心に講演・研修・コンサルティングなどを行っている。

す。そこから本当にやりたいコトに向かって一歩踏み出すことができるのです。それは、個人でも会社であっても同じことだと思います。

私は、この仕事のお蔭で、片づけは単に部屋をきれいにするだけでなく、その人の人生を変える力があると改めて気づかされました。これからも、「かたづけ」を通して、お客様の人生が豊かになることを応援していきたいと考えています。

北高在校生、卒業生のみならずも、ぜひ今日から「かたづけ」始めてみませんか！

高校時代の思い18年後に

小学校教諭

坂井 正人 第38期

さかい まさと



高校を卒業して早27年が経ちました。当時の記憶が曖昧になっても、いつも友だちと笑っていたことは今でも思い出されます。

勉強もせず、誰の方がテストの点数が悪いかを自嘲気味に自慢し合っていた頃。「卒業したら大学に行くしかないんだろうなあ。」と卒業後の不安を感じ始めた18歳の自分。初めて受けた模試で200点さえ取れなかったせに「小学校の先生になるか。」と恥ずかしげもなく友だちに伝える脳天気さ。そんな私でしたが、誰にもいっていなかったもう一つの夢がありました。それは、青年海外協力隊に参加すること。ボランティアとはほど遠い高校生活をしてきた私は、その夢を口に出すことに恥ずかしさを感じたのでした。そんな思いを抱えたまま、2浪の末に教育大学旭川校に入学し、教育の道へ進みました。

少年団活動や日々の授業に追われ、忙しい毎日でしたが、ふと思いつくのは協力隊への夢。何度も参加を考えましたが、当時は退職しないと参加できませんでした。現職参加制度ができたのが30代後半。もはや中年海外協力隊。それでも、最初に最後という気持ちで応募しました。そしてなぜか合格。赴任先はセントルシア（以下ルシア）。

どこそれ？へえ、中南米ねえ。でも英語圏か。えっ人口16万人！小さっ！えっ淡路島と同じくらい大きさ？国なの？そこで小学生に授業をする！日本人にはなじみがない国でしたが、現地の子どものたちの様子を想像するだけでわくわくしていました。

ルシアでは、日本で言うALT（アシスタントラングエイジティーチャー）のような立場で市の教育委員会に所属し、市内11校を回って授業していました。教科は図工、音楽、体育と算数でした。ルシアでは情操教育がほとんどなく、その教育分野の普及が活動のメインのひとつでした。もう一つは、算数の授業改善です。ルシアの先生方の中には算数を苦手としている先生が多く、子どもたちだけではなく、先生方にも研修会を開いていました。

初めの一年間は苦勞と失敗の連続でした。言葉の壁、文化の違いもさることながら、仕事に対する考え方の違いにも悩まされました。何より、知らないうちに身につけていた「助けてあげる。」といった、上から目線のボランティア精神。まずは、その国の生活を楽しむ、文化に親しむ、活動をさせてもらう、という謙虚な姿勢が私にはありませんでした。その大事な



ことに気がつくまで1年かかりました。

気がついてからは、活動や交流の幅も広がりました。夏休みには理科教室を開いたり、リコーダーの演奏会やランタン工作大会などに関わったりと、ルシアからの要請以外にも、地域に密着した活動をすることができました。

たった二年にも満たない活動期間でしたが、多くの出会い、気づきがあり、今の私の教員生活を支えています。もつと若いときにくけたら！という思いもあります。しかし、高校卒業し、さらにもう一回卒業できる18年後、中年海外協力隊だからこそ気づけたことも多いと思います。

協力隊への思いのスタートは高校時代。曖昧な記憶の中に、その思いの原点を作ってくれた環境がありました。27年後、今ここに自分が、友だちがいる喜びを感じます。高校生活ありがとうね。



夢を諦めない

キャビンアテンダント

出合 美和

第38期

であい みわ

乗務歴17年。子供の頃からキャビンアテンダントになりたいという夢があったので、短大時代の就職活動では、航空会社を何社も受けました。しかし、残念ながら全て不合格。一度は諦めました。旭川の旅行代理店に就職。ツアーの企画、販売など、それなりにやりがいがありました。夢は完全に諦めてはいませんでした。当時のCA採用は新卒が主であり、年齢制限が国内の航空会社は21歳でした。

そうこうしているうちに、その年齢を越してしまいます。しかし、「CAになりたい!」という夢を諦めきれず、年齢制限のない外国の航空会社を目指します。そこでカナダに留学。卒業後は旭川での実務経験をいかし、バンクーバーにある旅行代理店に就職。必死に営業成績も上げ、就労ビザを獲得しました。そして個人で永住権の申請。全てはカナダの航空会社に応募出来る資格を得るためでした。エアーカナダがCAの募集を発表。

書類選考の後、難関である三次面接を経て採用が決まりました。

短大卒業後7年目で夢の実現。ベースはバンクーバー。



に乘務しています。

世界の色々な国民性に触れるにつれ、日本人の国民性を強く誇りに思うようになりました。何年乗務していても、色々なバックグラウンドをもつ人々から学ぶ事は膨大で、かけがえのない経験です。人生でこれ程色々な方々と触れ合える仕事はキャビンアテンダント以外にないでしょう。夢の実現に、遠回りをしたけれど、今は短大の時に合格しなくて良かった、と思います。カナダではCAはキャリアです。こちらでは長く働けます。好きな仕事をずっとできて幸せです。

ー。厳しい訓練後、念願かなってのCA生活。華々しく国際線デビューを期待していたものの、カナダ国内線の夜行便ばかりというスタートでした。国内線といっても、最大4時間半の時差がある広大な国土。気候も文化も言葉まで違います。方言がわからなくて困惑したり、もうひとつの公用語であるフランス語が流暢でないため、フランス語の乗客に無視されたりしたこともありました。又、北米全土に広く巡らされている航路、1日に4便乗務などざらで、肉体的にもかなりハードでした。現在は、バンクーバーから成田、香港、ソウルやロンドンを中心に、国際線



同窓生から

●北高24期 石川 章

●北高43期 江刺 誠治

北高学舎の会から皆様へ



石川 章
(北高24期)

私が北高を卒業してから、ちょうど今年で40年になります。もう40年にもなるのかと今しみじみ感慨にふけています。現在は現在、北高にも近い大町小学校に勤務しております。(あと退職まで、2年を切ってしまいました。)

さて、この紙面を使わせていただき、私たち教育公務員の仲間組織された「北高学舎の会」の紹介をさせていただきます。北高学舎の会は、昭和61年に設立され、北高校同窓生であり、かつ学校管理職・教育行政職にある者(または、その職を目指す者)が会員となり、上川教育の発展・充実に寄与するため、年間2回の研修会開催と親睦(その後の懇談会)を深めている全道的にも唯一の高校同

窓の教育管理職組織であります。

今年度は、41期から入会資格があり、今現在78名の会員で組織されています。役員を紹介させていただきますと、顧問(24期)谷義則(比布町教育長)(24期)水野和男(東神楽町教育長)(25期)水上丈実(教育大大学院教授)、会長(24期)石川章(大町小)、副会長(23期)大寺基(高台小)(24期)吉崎隆(知新小)(26期)岩田俊二(富良野東中)、事務局長(27期)鎌田優子(旭川第一小)といったスタッフで今年度は運営されております。

この度の49回同窓会実行委員長の武田要先生は、北高学舎の会の38期の代表幹事でもあります。この会が、これからも会員の絆を大切に、同窓の管理職との交流を深め、上川教育の発展・充実に寄与していくことを願ってやみません。

『ビジョン』



江刺 誠治
(北高43期)

北高に入学した理由、それは英語科があったから。小学校からはじめた英語塾がきっかけで、英語が好きになった。高校でも英語だけは自信があった。北高卒業後は道教育大旭川校に進んだ。何もないけれど今頃、教員になっていたはずだ。それが、今は野菜や果物を売っている。久しぶりにあった友人は誰もが驚く。大学卒業目前、四年生、青果店を営む父が体調を崩した。その仕事を手伝えるのは自分だけだった。中退を決断した。教官、友人、親族、両親さえも猛反対した。そんな状況でも、ためらうことなく決断できる自信があった。ある教官の言葉がよみがえる。「教員と八百屋、社会の中で高く評価されるのはどちらか?」『八百屋は勉強しなくてもなれ

る。』悔しくて、悔しくて溢れそうな涙をこらえて、唇をかみしめた。『だれにも負けない八百屋になつてやる!』このとき、自分の進む道が見えた。必要なのは知識と情報、そして個性。祖父母が専業農家であることが強みだった。

まずは、当時だれも知らないような西洋野菜を作ることから学んだ。図書館に通いつめ、専門書を読みあさった。出来た野菜を料理人にみてもらい意見を求めた。知識がついてきたころ、『野菜ソムリエ』という資格にであった。腕試しのつもりで、初級『ジュニア野菜ソムリエ』を受験した。拍子抜けだった。中級にチャレンジしたとき、自分の未熟さを知り、野菜の深さを知った。さらに上を目指し、上級『シニア野菜ソムリエ』に到達した。

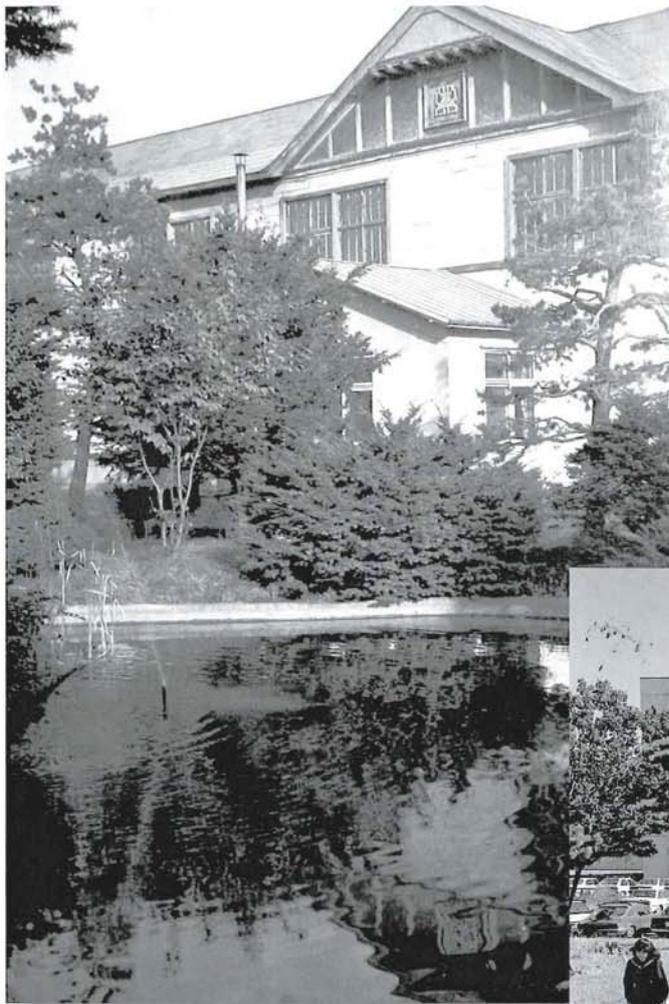
『食』はすべての活動の原点。その『食』に携わる仕事には誇りをもっている。

これからの社会、野菜や果物への関心がたかまっていくはずだ、

そう思ったあの頃の自分は正しかったと実感している。

『ビジョン』とは将来の見通しや構想、こうなっていきたいというイメージ。自分のビジョンでは今はまだ初歩。ようやく準備が整ってきたところ。これからが勝負のとき。

世界中で活躍している仲間たちに負けないようにこれからも頑張ります。



進路指導部
(全日制)



中林 信也

【私立大学合格者数】(現役+過年度)

大学名	H21	H22	H23	H24	H25
慶女子大	6	12	11	8	15
北星学園大	8	7	9	15	18
北海学園大	26	36	29	34	21
天使大	3	5	1	6	3
北海道薬科大	3	2	7	6	
酪農学園大	1	2	2	5	4
北海道医療大	8	8	17	19	12
日赤北海道看護大	6	1		2	1
北海道文教大	6	13	7	11	13
獨協大	1	4	5	2	1
青山学院大	1	5	5	3	1
学習院大	1	1	1		1
慶應義塾大		3			1
国際基督教大	1	1			
駒澤大	1		3	2	3
上智大			1	3	
専修大	1	2	4	1	2
創価大	2	4	2	2	6
中央大	5	10	9	8	8
津田塾大		1	1	1	
東海大	4	3	4	3	3
東京農業大	2		5		3
東京理科大		3	5	4	3
東洋大	3	3	2	4	2
日本大	3	4	3	4	3
法政大	8	5	7	3	5
明治大	2	5	2	3	2
明治学院大	2	3	1	2	
立教大	1	1	1	6	2
早稲田大	1	1	1	3	3
神奈川大	1	4	2	5	3
京都女子大	1				
同志社大		1	3	2	1
同志社女子大			1		
立命館大	1	1	2	1	3
関西大			1		
関西学院大	1		1	1	3
その他	49	49	54	66	46
私立大合計	156	201	204	236	217

【公務員・民間就職合格者数】(現役)

職種	H21	H22	H23	H24	H25
国家公務員	2	1			1
道庁職員		3	1	2	1
市町村職員	2	4			3
他の公務員		2	6		
民間就職	2	1			1

【国立大学合格者数】(現役+過年度)

大学名	H21	H22	H23	H24	H25
北海道大	17	16	15	11	12
北海道教育大	23	29	22	19	24
室蘭工業大	5	5	7	4	3
北見工業大	1	2	4		4
小樽商科大	5	8	3	3	8
帯広畜産大	2		1	3	
旭川医科大	4	3	5	6	2
弘前大	1	1	1	1	3
東北田大		3	3		2
秋田大	1		3	1	1
山形大	1	1	1	4	
福島大	2	1			
茨城大			1	1	
筑波大	1	1	1		1
宇都宮大		2		2	
埼玉大	4	2		6	
一橋大	1	1			
電気通信大	1	1		2	
東京学芸大	1			1	
東京工業大					2
東京外語大			1		
東京農工大		1	1	1	1
横浜国立大			2	1	1
新潟潟大	4	4	7	7	12
金沢大	2		6		
信州大	3	2	2	1	
静岡大		3	1	3	
名古屋大		1	1	1	
京都大	1				1
京都市芸文大	1				1
大阪大			1		
神大				1	2
広島大					
高知大					
琉球大	1			1	
札幌医科大	2	1	2	1	1
公立はこだて未来大	1		4	1	3
釧路公立大	4	3	5	6	7
札幌市立大	3	2	4	2	
帯市立大	5	2	5	5	
高崎経済大	1	4	1		3
国際教養大					
首都大	2		2	1	
横浜市立大		1	3	2	
都留文科大	2	1			1
神戸市外国語大		1	1		1
その他	9	3	7	11	8
国立大合計	116	115	130	125	113

※旭医大医学科 H21(2)、H22(2)、H23(1)、H24(3)

平成二十五年度の卒業生は、単位制導入後、六回目の卒業生になりました。単位制の進路指導では、一年次より、将来を見据えて、大学で何を学びたいのかを具体的に考えさせることから始まります。また、道内外の大学による進路説明会や出張講義などの実施、オープンキャンパス等への積極的な参加の奨励などが特徴としてあげられます。

この学年は、一年次のときから、梶原学年主任を中心に、学習指導、進路指導に積極的に取り組み、着実に実力を伸ばしてきた学年です。生徒の学習へのモチベーション

ン維持に努め、進路ノートの活用、学年における教科ごとの模試分析、見学旅行前の「第一志望宣言」など、細かな指導を継続的に実施し、進路実現へ向けて指導を進めてきた学年でした。

今春の大学入試センター試験では、昨年難化した「国語」が更に難しくなり、一〇〇点を下回る平均点となりセンター試験開始後最低でした。また、理科では、科目間で平均点が大きく開き、文系が選択する「生物、地学」で昨年よりダウンし、国語の難化と重なり厳しい結果となりました。

本校の最終的な大学入試の結果は、九十一名が国立大学の現役合格を果たし、例年に比べ若干少ない結果となりました。この背景には、来年度より導入される新課程のセンター試験を回避するため、浪人生などの安全志向が目立ち、「自分が納得できる受験をしよう」と勝負にいった結果、厳しいものとなったと考えます。しかし、道

内勢の合格者が年々減少している北海道大学には、例年並みの十名が合格し、更にその上では三年ぶりに京都大に一名、東北大に二名、また単位制になって初めて東工大にも二名の現役合格者を出し、かなり健闘したと言えます。

私立大学でも、首都圏の早稲田、慶應大を初め、難関私立大への進学を希望する者が年々増加傾向にあり、自分の研究したい学部のある大学や、より高度な専門の研究ができる大学を積極的に調べ、希望する私立大学への進学者も確実に増加しています。

以下には十年前と比較した表を示しました。単位制になり国立大学への進学者を増やしてきましたが、進路学習を進める上で、特徴的なカリキュラムを持つ、私立大学への志願者も出てくるようになりました。今後とも細かい進路指導を推進し、生徒個々の生き方を大事にした進路選択を支援していきたくと考えています。

平成25年度 進路別人数 卒業生の進路

区分	合計			前年				
	男	女	計					
卒業生数	129	111	240	237				
進学希望者数	129	106	235	232				
進学者数	98	100	198	198				
進学先	大学	国立	道内	35	21	56	53	
		国立	道外	18	10	28	45	
		私立	道内	19	25	44	37	
		私立	道外	22	22	44	37	
	短大	国立	道内	0	0	0	1	
		国立	道外	0	0	0	0	
		私立	道内	0	3	3	6	
		私立	道外	0	0	0	1	
	大学校等	専門学校	看護	道内	1	2	3	1
		専門学校	看護	道外	0	7	7	7
専門学校		その他	道内	0	0	0	0	
専門学校		その他	道外	2	3	5	7	
就職	公務員		1	3	3	3		
	民間		0	1	1	1		
自営：家事手伝い		0	0	0	1			
その他(未定を含む)		31	7	38	34			

国立大学現役合格者数及び1クラスあたりの平均合格者数

卒業年度	H13	H14	H20	H21	H22	H23	H24	H25
学級数	8	8	6	6	6	6	6	6
合格者数	90	93	125	103	98	106	104	191
人/クラス	11.3	11.6	20.8	17.2	16.3	17.7	17.3	15.2

難関国立大、医学科合格者数(現役)

大学名	H13	H14	H20	H21	H22	H23	H24	H25
北大(文系)	1	1	9	8	7	2	3	3
北大(医理系)	10	5	13	6	8	12	3	7
旭医大(医)				2	1		3	
東北大	1		2		3	3		2
筑波大		2	1	1	1	1		
一橋大					1	1		
東京外国語大				1			1	
名古屋大							1	
京大				1	1			1
大阪大							1	
計	12	8	13	27	19	21	21	9

14部活動報告

●野球部

現在44名で活動しております。早いもので前回甲子園出場から10年が経ちました。なんと今年こそまずは北大大会に出場するために部員・顧問一同力を合わせて頑張りますので応援の程よろしくお願いいたします。

●ソフトテニス部

ソフトテニス部の活動を報告させていただきます。ここ数年、入部者が少なく、寂しい状況が続いてきました。今年度は経験者6名が入部し、新年度15名でスタートすることができました。数年ぶりに全学年が揃い、活気のある活動ができています。高体連での団体戦は3位と、数年ぶりに上位進出することができました。個人戦では残念な結果に終わりましたが、新チームでは北高の伝統を引き継ぎ、先輩の分まで頑張る決意で練習に取り組んでいます。どうぞこれからも温かく見守ってください。よろしくお願いいたします。

●テニス部男子

旭川北高男子テニス部は現在、3年生13名2年生16名1年生10名の39名で活動しております。先日、高体連を終えて3年生は全道進出を果たせませんが、出場した選手はそれぞれ自分のテニスをやり切り、後輩達にしっかりとバトンを渡すことが

決勝トーナメント	旭川北	2-0	旭川農業
準決勝	旭川北	0-2	旭川実業
個人戦	大川・富永組	4回戦進出	

きました。

現在、1・2年生26名の新体制で秋の新人戦に向けてスタートを切ったところです。道のりは長いですが、目標に到達するために必要な努力を考え、全員で乗り越えていきたいと考えています。

●テニス部女子

女子テニス部は、例年であれば新チームに移行しているところですが、今年度は、団体戦で準優勝(十一年ぶり)、個人戦シングルス優勝(十八年ぶり)という素晴らしい結果を残してくれ、全道大会の出場権を獲得しました。現在はそれに向けて、さらに練習に熱が入っているところです。2年生は、全道大会でより高いレベルのテニスにふれることとなります。それがいい効果をもたらすことを切に願っています。

しかし今年度は新人部員がいなかったため、新チームは2年生6人での活動となります。「旭川支部での高校テニスは北校から始まった。」と言っても過言ではないくらい歴史のあるチームであることを考えると、非常に残念な状況ではありますが、今いる部員を鍛え、次の大会も活躍できるように頑張りたいと思います。

●男子バレーボール部

昨年度の高体連後は7名の選手となりましたが、全道新人大会にも出場することができ、シード権を守りながら戦ってきました。しかし、今年度の春季大会で旭川実業高校に敗れノーシードで高体連を迎えました。予選リーグで旭川西高校に勝ち、ベスト4決めで富良野高校に負けはしましたがフルセットの末、ジュースにもつれ込む熱戦となり、見ている人たちに感動を与えました。試合ができたと思います。新チームには1年生7名の大量入部(内5名が初心者)があり、11名でスタートすることができました。しかし2年生も含めると6名が高校からスタートとなります。7月末の最初の大会までには十分な準備は出来ないとはいえませんが、見ている人たちに感動を与えることができるプレーが出来るよう一生懸命頑張

りますので応援よろしくお願いいたします。(大会結果)

◇バレー祭

1回戦	旭川北	2-0	旭川東
準決勝	旭川北	0-2	旭川実業
3・4位戦	旭川北	0-2	旭川工業

◇旭川支部春季大会

1回戦	旭川北	0-2	旭川実業
◇高体連旭川支部予選会	旭川北	2-0	旭川西
予選グループ戦	旭川北	2-0	旭川西
決勝トーナメント戦	旭川北	1-2	富良野

●女子バレーボール部

今年度は、3年生5名、2年生7名、1年生3名の計15名で活動しています。去年10月の選手権予選で全道までもう一步の4位となり、実力の向上を感じる事ができました。その後も積極的に練習試合に取り組み、さらなるレベルアップを目指しましたが、シード校の壁は厚くなかなか勝ち進んでいく事ができませんでした。5月に行われた高体連支部予選会では決勝トーナメントに進出しましたが、シード校にあたる前に敗退してしまいました。

●高体連旭川支部大会

予選グループ戦	旭川北	2-0	鷹栖
決勝トーナメント戦	旭川北	0-2	旭川西

●サッカー部

サッカー部は3年生の多くが抜けた後、現在1年生21人、2年生14人、マネージャー15人の計40人で活発に練習しています。高体連では、2回戦で難敵、旭川凌雲高校に競り勝つたものの、3回戦では旭川東高校に敗れてしまいました。しかし、最終まで選手は諦めることなく、持てる力を出し切って全力で戦いました。まだまだ、力不足である点をしっかりと受け止め、今回の悔しい思いを忘れず、更に高い目標に向か

って進んでいきたいと考えています。

3年生のほとんどは今大会で引退してしましますが、このチームに残してくれたことはたくさんあります。それらを大事にして、また新しいメンバーと北高サッカー部の歴史を刻んでいきたいと思っています。応援よろしくお願いします。

●卓球部

高体連旭川支部大会の結果は、男子学校対抗戦でベスト8、女子学校対抗戦で第3位で全道大会出場はなりませんでしたが、しかし、個人戦では男子ダブルスで代表決定戦に進出(2対3で敗退)、女子ダブルスでは代表決定戦で勝利し全道大会出場を決めました。

●高体連旭川支部予選結果

男子学校対抗戦予選トーナメント	旭川北	3-0	龍谷
旭川北	0-3	旭川東	
女子学校対抗戦決勝トーナメント	旭川北	1-3	留萌
女子ダブルス	植松・山崎	5位	

●バドミントン部

バドミントン部は男子12人、女子15人の計27人で活動をしています。男女ともに仲が良く、どんな辛い練習でも協力し、毎日明るく練習に取り組んでいます。

今年も、顧問の先生をはじめ、OBやOG、大学生や実業団選手の方々など多くの方々の応援とご支援をいただき、新人戦全道大会では男女ともに団体戦出場を果たすことができました。また、高体連全道大会では女子が団体および個人戦に出場することができました。

今後、より一層練習に励み、より良い成績を残せるように、そして一番の目標であるインターハイ出場を目指してみんなで

切磋琢磨して日々努力していきたいと思っ
ます。

【主な大会結果】

◇高体連支部大会および各種全道大会
北海道高等学校新人大会
平成26年1月15日～18日 北見市

男子団体 ベスト8
女子団体 2回戦敗退
女子複 2回戦敗退

◇高体連旭川支部大会
平成26年5月20日～22日 旭川市

男子団体 1回戦敗退
女子団体 第2位
男子複 ベスト8
女子複 2回戦敗退

男子単 鈴木・高木
鈴木・磯部
馬場・白崎
細谷・小西
山田・小松
児島・原田
鈴木
佐々木
高木
児島
小西
細谷

女子単 鈴木・高木
鈴木・磯部
馬場・白崎
細谷・小西
山田・小松
児島・原田
鈴木
佐々木
高木
児島
小西
細谷

女子複 鈴木・高木
鈴木・磯部
馬場・白崎
細谷・小西
山田・小松
児島・原田
鈴木
佐々木
高木
児島
小西
細谷

男子単 鈴木・高木
鈴木・磯部
馬場・白崎
細谷・小西
山田・小松
児島・原田
鈴木
佐々木
高木
児島
小西
細谷

女子単 鈴木・高木
鈴木・磯部
馬場・白崎
細谷・小西
山田・小松
児島・原田
鈴木
佐々木
高木
児島
小西
細谷

●剣道部

現在剣道部は新入生三名を加えて男子十
名で活動しています。少ない部員ですが先
輩たちが築いてきた伝統を受け継ぎ、「全
道優勝」を目標に、「人間形成」を目的に
日々練習に励んでいます。部活動、学校生
活、私生活、すべてが繋がりが自分を成長さ
せることができるような指導を目指してい
ます。勉強と部活動は支え合うのではなく、
それぞれ強くなる道は同じである。生徒に
は、切りかえをしつかりして高校生活を充
実させて欲しいと思っています。

今年のチームは、スター選手はいません
が、個々に力があり、団結力のあるまとま
ったチームです。昨秋の新人戦団体優勝に
はじまり、春季大会団体優勝、高体連支部
大会二連覇と結果を出すことができていま
す。現在は全道大会に向けて練習していま
すが、これからも魅力的な剣道部づくりを

目指して頑張っていきたいと思っ
ます。日頃から北高の活動を支えてくださっ
ている方々にこの場を借りてお礼申し上げま
す。これからもご支援、ご声援のほど、よ
ろしくお願ひします。

◇旭川地区少年剣道大会
男子団体 優勝
女子団体 優勝

◇三段の部 増田 ベスト8
青野・高野 出場

◇高体連旭川支部大会
男子団体 優勝
男子個人 高野 第5位

◇(男子団体・個人(高野)は全道大会出場)
・団体予選全道大会出場(宇山・高野)

●陸上競技部

今年の北高陸上競技部は、総勢39人と、
道内でも有数の規模で活動しています。人
数の多さもさることながら、選手一人一人
の士気も高く、先般行われた高体連旭川支
部大会では、走高跳で男女共に優勝、また
男子5000m競歩において、2年生が大
会新記録で優勝するなど、銅路で開催され
る全道大会に向けて、順調な滑り出しとな
っています。

全道大会では、一人でも多くインターハ
イ進出者を出すことを目標に頑張ります。

●男子バスケットボール部

私達は現在二年生十三名、一年生九名、
マネージャー三名で足立先生の指導の下で
活動しています。高体連では、惜しくも二
点差という僅差で凌雲高校に二回戦で負け
てしまいました。しかし、ここでの悔しさを
バネに日々の練習に取り組み、もっと力
をつけて、走れるチームを目指して頑張り
ます。そして来年の高体連では昨年のチー
ムでは果たせなかった全道大会出場を目指
して精一杯頑張ります。

●女子バスケットボール部

私達はプレイヤーが三年生二名、二年生
八名、一年生六名、マネージャーが一年生
一名の合計十七名で活動しています。

昨年は全道ベスト8まで勝ち上がりまし
た。夢の全国大会に向け、「心をこめて」
頑張ります。

◇高体連全道大会 三回戦(ベスト8)

◇キシイカップ 一回戦敗退

◇選抜旭川予選 準優勝(全道出場)

◇選抜全道大会 三回戦(ベスト8)

◇秋季大会 二回戦敗退

◇新人旭川予選 二回戦敗退

◇旭川地区春季大会 準優勝

◇高体連支部予選 一回戦敗退

●山岳部

山岳部は男子7名女子2名で顧問の竹中
先生、細野先生、及川先生と楽しく活動し
ています。

活動は土日の登山が中心で、平日は週二
回、主に天気図を書いたり、登山に必要な
知識についての学習会などを行っています。
ランニングをすることもあります。大会が
近い時には、大会に向けた体力作りや資料
作成など毎日活動します。

春は残雪の山、夏は美しく一面に咲き誇
る高山植物、秋には紅葉で赤く染まった山
並み、冬はスキー登山と、四季を通して登
山に親しんでいます。

今年度は、大雪や十勝の山、芦別岳、チ
トカニウシ岳などに登りました。昨年の夏
合宿では、2泊3日で天人峡温泉からクワ
ウンナイ川を遡行して大雪山に登りました。
川岸にテントを張り、釣った魚を焚火で焼
いて食べたのは良い思い出となりました。

学校祭の部局展示では今年度の登山活動
を発表しました。部局展示への参加は今回
が初の試みで、いい経験となりました。

今年の地区大会は大雪山の黒岳と北銀岳
で行われました。男子は14パーティと参加
パーティが多く、顧問も含めると総勢
100名近くになり、大変にぎやかな大会と
なりました。北高は男子1パーティが参加
しましたが、女子はパーティを組まず研修
隊として参加しました。北高は研修隊も含
めて全員が大会コースを踏破しました。

男子は準優勝の成績で、二ベソツ山とウ

べサンケ山で行われる全道大会の出場権
を得ることができました。全道大会では大
会の雰囲気や他校との交流を楽しみながら
も、北高の名に恥じぬよう好成績を残した
と思います。

3年生が抜けると部員5名とさみしくな
りますが、山岳部が盛り下がらぬよう頑張
りますので、今後の山岳部の活動にご期待
ください。

●囲碁部

五月二十九、三十日の両日にわたり岩見
沢西高の記念館「大地」で高文連北海道囲
碁選手権大会が開かれました。

本校から一年の渡辺が個人戦Aクラスに
出場しましたが、残念ながら一回戦での敗
退となってしまいました。

●吹奏楽部

吹奏楽部は今年春1年生19名を迎え、総勢
53名で一聴衆に感動をあたえられる演奏を
しよう」を目標に部員全員が一丸となって
精力的に演奏活動を行っております。現在
は北高祭や吹奏楽団体コンクール、第39回
定期演奏会に向け毎日練習に励んでいます。



平成25年度の活動内容および成績
高文連上川支部音楽発表大会

吹奏楽コンクール部門 優秀賞

北海道吹奏楽団体コンクール旭川地区予選

高等学校A編成の部 銀賞

高文連全道音楽発表大会

吹奏楽コンクール部門 5位

北海道個人・アンサンブルコンクール
旭川地区予選

クラリネット独奏 金賞

ユーフォニアム独奏 銅賞

クラリネット八重奏 金賞

サキソフーン四重奏 金賞

第38回定期演奏会主催

スタルビ球場ナイター設備完成にけら落とし参加

北海道音楽大行進、アウターコンサート参加

末広地区ふれあいコンサート参加

校内活動

入学式、新入生歓迎会、野球応援、

北高祭、卒業式にて演奏

●美術部

部員数は昨年度8名でしたが、今年度は1年生5名、2年生5名、3年生3名の合計13名となりました。ミーティングでは、今まで実施していなかった合宿や映画鑑賞会、人物デッサン会などの企画が提案されるなど前向きに、そして仲良くにぎやかに活動しています。5月の高文連実技研修会が終わり、現在は北校祭装飾の会議に部員が多く関わり、連日会議を行っています。例年通り北校祭ポスターやロゴは美術部の作品が採用されました。北校祭終了後は高文連の作品制作に集中しますが、今年も部員全員全道大会出場を目指し、完成度の高い作品を仕上げてくれることを期待しています。

●音楽部

部員数30名以上ですが、活動場所が狭いので、活動も思うようにできないのが悩みです。軽音楽部として、主にJポップなどの曲を演奏しています。演奏機会としては、学校祭、図書館コンサート、クリスマスライブ

ントライブなどです。また、学校祭のテーマソングも作っています。学校祭を盛り上げるために一役買っています。

●書道部

今年度は、三年生五人、二年生五人、一年生八人で活動しています。現在は高文連に向けて、各自作品制作に没頭しています。大会後も作品鑑賞や他校との交流で学んだ事を活かし、日々、書道教室で理想の字を求め模索しながら練習に励んでいます。昨年からは上川地区校合同の春期強化合宿に参加し、年度の締めとして、合同練習の場で自分の力量を測ると共に、普段教わることでできない創作を学ぶことができました。本校書道部として初めての試みでしたが、各々得たものも多く、充実した合宿となりました。今春からフィンランドからの留学生、ピアン・ベステイさんが書道部に加わり、日本文化への興味による探究心や外国人ならではの自由は発想で、部内でも活躍を見せています。書道部は今後も、充実した部活動や発展を目指し、伝統文化の継承を担う世代の一人として挑戦を続けていきます。

●演劇部

何とー今年度は新入部員が5名（しかも、男子2名へハ画期的）入部。2年生3名、クラス3年1名の、合計9名で活動しています。上級生の頃は緩みっぱなしです。5月30日に行われた、高文連上川支部演劇専門部「水点華」（合同公演）では、3年の加藤翼が実行委員長をつとめ、他の部員もキャストにスタツフに活躍しました。「往生要集」という題名の娯楽長大作でした。入場者も多く、公会堂がほぼ満員にぎやかでお祭りのような舞台でした。

昨年度の全道大会で2年生の菅原真彩が、北海道代表の生徒講師委員に選出され、今年の7月末に行われる全国大会（高文連）で、講師員をつとめることになっています。夏の最も暑い期間に、茨城県に行くのはけっこうつらいのですが、大きな楽しみでも

あります。

肝心の本校の演劇も、漸く自分たちで台本をつくるという方針が浸透してきました。いまは、学校祭に向けて新しい台本の原案を全員で練っているところです。さまざまな要素をちりばめた、フルツバフェのような芝居になりそうです。もちろんその中には、今年度から顧問になっていただいた高橋秀典先生も入っていたいただいて、物理の先生らしい舞台装置を考えてもらおうべく、話を詰めています。というわけで、例年以上に賑々しく活動をしています。

●華道部

現在、二年生九名、三年生三名の計十二名で毎週水曜日に活動しています。少ない活動ながら、立岩先生のご指導の下一人ひとりが着実に上達しています。稽古後は生けた作品を生徒玄関、図書室に展示し、たくさんの方にご覧いただいています。学校祭では稽古の成果を発揮するために一段と団結して展示を削り上げます。今年度は人数が増えたため、より華やかで凄みのある空間をおみせしたいと思っています。ご来場の方々には日本の美しい文化に触れていただきたいと思います。

また、昨年度はインターネット花展に出品し、二名がノミネート賞を受賞しました。出展作はウェブ上でご覧いただけます。普段とは一味違う活動でとても勉強になりました。今後も、校外に向けての活動を積極的に行っていきます。

私たちは、先輩方から受け継いだ旭川北高華道部と日本の華道の精神を守り、次の世代と新しい伝統を築けるように活動していきます。

●茶道部

今年度は、一年生女子四名、二年生女子一名が入部しました。一年生四名、二年生五名、三年生十一名、計二十名で活動しています。例年通り、月曜日は技芸講師の立岩先生のご指導のもと稽古に励んでいます。

本曜日は自主練習で、三年生が中心となり基本練習の席入や帛紗さばき等の割稽古を行っていただきます。五月には、同門会の春の茶会に出席し、六月は井上靖記念館で行われる赤い実の洋燈茶会に出席します。昨年は、秋の茶会、クリスマス茶会、三月美術館茶会と積極的に外部のお茶会に参加しました。七月の学校祭は、日頃の活動成果を披露できる唯一の場です。五月から北高祭のお茶会に向け、より上達したお手前を披露するために、各々が時間をみつけてはお手前の練習に励んでいます。三年生が七月で引退すると、八月からは二年生が中心となり、人数的には少し寂しい状況にはなりますが、その分一人一人の練習時間に余裕ができますから、十分な練習を積んで、一年生と共に歴史ある北高茶道部の伝統を受け継いでくれることを願っています。

これからも茶道を通して人を心からもてなす精神を学び、心豊かな人間になれるよう稽古に励んで欲しいと思います。

●インターアクト部

私たちインターアクト部は、旭川北ロータリークラブのご支援のもと、ボランティア活動を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

インターアクト部は、インターナショナルとアクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通して地域社会に貢献することを目的としています。毎週の定例ミーティングで、「自分たちができること」を部員同士で相談しながら、ボランティア活動に取り組んでいます。活動内容は次の通りです。これからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

①美化活動

- ・旭川冬まつり会場跡地の清掃活動
- ・春季・秋季ごみのポイ捨て禁止運動への参加
- ・校内の清掃
- ・学校敷地内および周辺のごみ拾い

②募金活動



- ・ベクトルボルキャップの回収
- ・赤い羽根共同募金活動の実施ならびに赤い羽根共同募金活動への参加
- ・あしなが学生街頭募金活動への参加
- ・FNSチャリティー募金活動実施
- ③地域との関わり
 - ・旭山動物園障害者と家族動物園特別鑑賞サポーターボランティア
 - ・おびつた祭り参加
 - ・障害者スポーツ記録大会
 - ・旭川市障害者週間記念事業参加
 - ・あつたかいねあさひかわ
 - ・旭川冬まつり会場観光ボランティア
 - ・保育園訪問

④大会参加

- ・国際ロータリー第2500地区インタースクールの大会
- ・高文連上川支部ボランティア研究大会
- ・高文連全道ボランティア研究大会

●文芸部

今年度は待望の男子一名と女子一名の新入部員を迎え、編集の腕をめきめき上げつつある二年生二名と、心から書くことを楽しんでる三年生六名の計十名で活動しています。

昨年度から高文連の文芸コンクール以外にも、一般に公募されている種々の作品コンクールにも意欲的に応募するなど、個々の創作活動は年々活発になっていきます。

今年度は、昨年の全道の文芸コンクールで入賞を果たした二年生二名（岡本 恩田）が茨城県で行われる総合文化祭への推薦を受けて「散文（小説）」「詩」の分科会へ、それぞれ参加できることになりました。「書く」ことに情熱を傾けている全国の高校生との交流の中で学んだことを、しっかりと全道各校の文芸部の皆さんや、自校の後輩達に伝え、今後の旭川北高、そして全道の文芸部の活動が益々力強くなっていくことに貢献したいと考えています。

○高文連上川支作文芸コンクール

詩部門 優秀賞 恩田一葉

佳作 岡本美月

小説部門 優秀賞 恩田一葉

佳作 岡本美月

短歌部門 佳作 岡本美月

文芸部誌部門全道推薦「玉響」

○高文連全道文芸コンクール

詩部門 優秀賞

恩田一葉↓総文祭推薦

小説部門 優秀賞

岡本美月↓総文祭推薦

文芸部誌部門 金賞

●放送局

最初の定期考査である前期中間考査が鬼門。放送の全道大会は常にその後に行われるので、生徒は大会の準備とテスト勉強

の狭間で大忙しである。毎年見る光景である。今年度のNHKコンテストに向けて、NHKはテレビドキュメントと2本のドラマを用意した。ラジオドキュメントについては、適当な題材が見つからず、また、動き出しに時間を要したため、久しぶりの作品無しとなった。その分、ドラマ部門、特にテレビドラマについては見応えのある作品を制作している。

先月（5月）に行われた上川地区大会においては、他校が最近メキメキと力をつけてきたこともあり、本校はラジオドラマ部門で久々の敗北を喫したが、全道大会では2つのテレビ作品で巻き返しを図る。

個人部門では、アナウンス部門に3人、朗読部門2人の3年生が出場する。仕上がりはかなりの水準になってきた。2年ぶりの全国大会進出を目指し、必死で練習を重ねている。

我々教師の立場から見ると、大会結果が年々下降してきている感じは否めないが、生徒の立場からすると、高校生活で残り一度の、貴重なチャレンジである。最高の準備をさせて、納得いく結果を出させたいものである。

諸先輩からの数々の激励の言葉も、彼らの耳には届いています。北高生の名に恥じぬ最後の頑張りを、今はお約束しておきます。

●写真部

こんにちは、写真部です。

今年も一年生二名が入部し、合計十名で活動しています。

今年は新たに、体育系部活動におじゃまし、練習風景を撮影させていただきました。それらの写真を中心とした作品を制作し、写真甲子園に参加・応募するといった活動を普段の活動に加えて行っています。

また、学校祭部局展示では今年も文芸部との合同作品制作を企画し、自分の撮った写真に詩をつけてもらうことで、違った視点から作品を見つめることができるのではないかと、楽しみにしています。

今後も活動を通して、より良い写真を撮れるよう努力していきたいと考えています。

●新聞局

新聞局の局長は現在、3年生の局長が一人で活動しています。企画・取材・執筆そして印刷を一人でこなし、大変ではありますが、学校新聞で高校生活を盛り上げたいという思いでこれまで製作を続けています。今まで、学校内の話題を記事にして新聞発行を重ねてきました。取り上げた内容は「校内英語スピーチ大会」・「見学旅行」・「入学式」・「卒業式」・「部活動紹介」・「学校祭」・「教育実習生の紹介」・「センター試験」などです。また、校内で頑張っている人がいるなら、みんなにも目を向けて欲しいということで、海外からの「交換留学生」や部活動で「目立った成績を残した生徒」にスポットを当てて紹介する記事も書いています。最近では、学校行事の他に、「コミュニティFM局の役割」「地元の魅力を紹介」「スマートフォンの使用について」などの特集記事を書いて生徒に身近な問題に気づかせるような新聞の発行を心がけています。取材を通して、学校内外の様々な人々とふれ合う機会があり、局長もそこに楽しさを感じるようになりました。

その甲斐あってか、北海道高等学校新聞コンクールでは平成23年には奨励賞、25年には優秀賞をいただきました。

新聞の定期的な発行を始めてから現在で5年目。顧問と生徒も新聞作りを一から学びながら製作に取り組んでいます。研修会に参加して指導を受け、他校の新聞に学びながら、前回よりもさらによいものを目指しに現在も活動中です。これらも校内外の話題を新聞記事にして面白い新聞作りを目指していきたいと思っています。どうかよろしくお願ひします。

●生徒会執行部

北高の生徒会は、生徒による主体的な運営を目指し、日々の活動に取り組みしています。新学期が始まってから夏まで、対面式・新入生歓迎会（4月）、生徒総会・リーダー

1 研修会・支部大会社行会（5月）、北高祭（7月）と生徒会行事が目白押しです。また、資料作成やリハーサルなど、放課後遅くまで残り、各行事の準備に多くの時間を割きます。どんなに準備に時間をかけても、いざ本番となると、見落としていたり、予期していないことが起きたりと、ハプニングが付きものですが、それでも行事を成功させた時は、何にも変えることができないほどの達成感や充実感を得ることができま

す。また夏休み後すぐにある体育大会（8月）、クリスマスイベント（12月）の企画・運営は、1・2年生を中心に行います。

先日、機会があり、北高出身の先生方に、少し（？）前の北高祭の様子を聞いてみました。フォークダンスが非常に盛り上がったこと、英語科が英語で演劇をものすごく真剣にやっていたこと、かなりの人が体育館まで演劇を見に来たこと、教室でライブをやっていたこと：1年生の合唱、2年生の演劇、3年生の展示は、ここ数十年行われてきた北高の伝統とも言える形であることもわかりました。

一方で、北高祭を古くから知る方の中には、これらの催しのレベル低下を指摘する人もいます。その対策として、生徒同士で鑑賞し、お互いに健闘を讃え合うような時間や雰囲気を作ること、希望する場合は同じ催しを2年連続で行い、1回目の経験を活かして内容や質のさらなる充実を図ること、などが挙げられます。いずれもまだまだ議論の余地があり、多くの先生方や生徒と話したわけではありません。生徒会としては、伝統を残しつつ、北高祭が今後より発展するような案を出し合い、これらの課題に取り組むことが少しでもできればと思っています。

北高祭をはじめ、生徒会活動をよりよいものにすべく、これからも努力したいと思えます。同窓会の皆様のお力とお知恵をいただく場面があると思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

●少林寺奉法部

今年度はは一年生8名を加え、男子14名・女子11名の計25名で活動しています。女子は六月の高体連全道大会で、全国大会への出場こそ逃したものの団体で2位になっています。新人戦では男女ともに全国大会に出場できるように今後も練習に励んでいきたいと思っています。

高体連全道大会（6月14・15日）会場 旭川北高

●男子

団体演武

柴田③・守山③・山田③・前田②

佐藤②・岡本②・室山②・武田②

前田②・岡本②

室山②・佐藤②

本戦出場

●理科実験研究部

こんにちは。まず始めに部員構成を紹介します。今年新たに一年生三人が加わり、三年生が三人、二年生が五人の合計十一名となりました。大人数となり、いつも楽しく明るい雰囲気の流れています。

次に活動内容を紹介します。一年生は基礎実験、二、三年生はグループを作り今秋の大会に向けて研究と実験を続けています。長期休暇中には、校外で公開実験と展示を行う予定になっています。毎年夏にはショッピングセンターで、冬には青少年科学館で実験をさせていただいています。大勢の方の前で実験をしたり、説明をしたりするのは大変ですが、同時にとても貴重なことです。その経験を大切にしていきたいです。

右も左もわからない一年生だった私たちも気がつけばあと一年と経たずに引退となります。

ります。直接お話ししていただいた先輩方はもちろんのこと、先代の先輩が残してくださったもののおかげで大いに助けられました。私たちがこの理科実験研究部の一員として、多くのものを先輩に残していきたいです。

●アーチエリート部

アーチエリート部は三年女子二名、二年男子三名、一年男子一名の六名で活動しています。年々、アーチエリートを希望する生徒が減少しています。弓具が高いことと、ここ数年、良い結果を出していないことが原因かと考えられます。

六月十八日から二十日まで、高体連全道大会が帯広の森アーチエリート場で行われました。女子が二名のため、女子団体戦に参加することができませんでした。三年生が引退すると女子がいなくなり、決勝トーナメントに進み、二回戦で札幌英藍高校に二対五で敗れました。個人戦では、男子三名、女子二名が参加しました。全員、決勝トーナメントに進みましたが、最高二回戦で敗退しました。今年に入賞する生徒がいませんでしたが、最後まで全力で行射していました。ルール改正により個人戦、団体戦ともセットシステムが導入され、ますます精神力とプレッシャーに負けない気持ちが必要と結果を出すのが難しくなりました。今後は練習を通して精神面の強化を進めていきたいと考えています。

高体連が終了し、二年生中心の部活動になります。現在、旭川アーチエリート協会の方々も生徒の指導にご尽力をいただいております。

今年から各種大会において、シングルラウンドから七十メートルラウンドに移行しています。旭川で開催される大会は、道北ブロックだけがシングルラウンドで行われます。

少人数ですが、今後も全国大会出場を目指して努力していきたいと思えます。

今年から各種大会において、シングルラウンドから七十メートルラウンドに移行しています。旭川で開催される大会は、道北ブロックだけがシングルラウンドで行われます。

●ソフトボール部

私たちソフトボール部は、高校から始めた初心者が多いのですが「打倒旭商、そして全道大会へ進出する」ということを目標に練習に取り組んできました。去年の夏は数え切れない練習試合でたくさん経験を積み、汗も涙もグラウンドに流す日々が続きました。秋もギリギリまで練習試合を重ねて多くの実践練習をし、冬は、毎日階段の走り込みを続け、バットを振り、筋トレをするなどの体力づくりを中心とした練習で心身強化に努めました。

今年の一年生が入部してからは、人数が増えて、普段の練習ではより実践に近い内容が多くなりました。そして今年は今までで初となる、「部員のみでの紅白戦」というひそかな夢も達成し、一歩一歩前に進んできました。辛い練習もありましたが、全ては旭商を打ち負かすために、とチーム一丸となって乗り越えてきました。

五月三十日、高体連。守備の面では相手にチャンスを作られることもありましたが、ダブルプレーで抑えるなど好守備が光り、今までの練習の成果が出て、自信をもってプレーをしていました。攻撃の面では、粘りのバッティングで簡単に引き下がることなく攻めの姿勢で向っていきま

した。結果は、残念ながら敗北に終わってしまいました。しかし、最後まで諦めることなく、粘りのプレーを見せってくれた三年生の姿、チームを盛り上げ、自信をなくしそうな人をほうっておかず励まして勇気づけてくれた優しくて頼りになった三年生の姿は、今も忘れられません。私たち一、二年生は引退した三年生から、最後まで諦めずに粘り続ける強い心と、どんな場面もチームでひとつになって乗り越えていく大切さを教わりました。

三年生が引退してしまっただけで、新チームとしてまた新たなスタートを切りました。先輩から教わったことをしっかりと心に留め、支えてくれる家族や応援してくれる全体的に感謝しながら、確実に打倒旭商へ走り続けます。

今年から各種大会において、シングルラウンドから七十メートルラウンドに移行しています。旭川で開催される大会は、道北ブロックだけがシングルラウンドで行われます。

今年から各種大会において、シングルラウンドから七十メートルラウンドに移行しています。旭川で開催される大会は、道北ブロックだけがシングルラウンドで行われます。

旭川北高
同窓会役員・幹事名簿

顧問	山形 積治	北八	旭川北高札幌同窓会	会長	武田 寛	北十六	幹事名	中一	吾妻 充	北十四	幹事長	小島大二郎	
顧問	西館 勝友	北十三	旭川北高同窓会名寄支部	事務局長	吉野 伸一	北十八	中二	西村 廣	北十六	幹事長	横山 直史	幹事長	横山 直史
顧問	八重樫和裕	北十八	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	塚越 英明	北十九	中三	吾妻 充	北十六	幹事長	廣田 秀美	幹事長	廣田 秀美
顧問	川島 崇則	北十八	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	坪内 晃	北二十	中四	西村 廣	北十八	幹事長	齊藤佐智枝	幹事長	齊藤佐智枝
顧問	尾崎 信彦	北二十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	小田島富男	北二十	中四	西村 廣	北十八	幹事長	加藤 修	幹事長	加藤 修
顧問	村本 定範	北二十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	安田 最次	北二十一	中四	西村 廣	北十八	幹事長	大川 孝一	幹事長	大川 孝一
顧問	潮 日出夫	北二十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田由美子	幹事長	石田由美子
顧問	吉村 千鳥	北二十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	庄司 和晴	幹事長	庄司 和晴
顧問	山本 淳一	北二十八	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	池田 定博	幹事長	池田 定博
顧問	近藤 博之	北四十三	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	植村 俊幸	幹事長	植村 俊幸
顧問	遠藤 剛	北十三	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	鳴海 範子	幹事長	鳴海 範子
顧問	中村 悦郎	北十六	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	林 仁彦	幹事長	林 仁彦
顧問	市山 力三	北十七	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	市川 陽一	北二十二	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	柴野 修一	北三十一	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	菅原 徹	北三十二	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	小枝 万美	北三十二	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	富田 公裕	北三十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	園田 和宏	北三十三	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	木村 公俊	北二十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	山中いつ子	北十九	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	鈴木 弥生	北二十五	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	平間 明鑑	北二十六	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	小菅千賀子	北二十九	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	赤松 浩恵	北三十	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	油屋 正	北二十九	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟
顧問	本田 晴樹	北三十二	旭川北高同窓会宗谷支部	事務局長	巽 昭	北二十四	中四	西村 廣	北十八	幹事長	石田 悟	幹事長	石田 悟



当番期

第49回 同窓会実行委員長

北高38期 武田 要

昨年九月、三十七期の先輩方から同窓会の引き継ぎをいただき、あまりにも準備作業の多さに驚き、不安になったあの頃からもうすぐ一年。

同窓会開催に向けて実行委員会を発足したものの、なかなかメンバーが増えずに苦勞する中、「まずはここにいるメンバーで頑張ろう!!」と声をかけ合い、一月の同期会を開催しました。同期会には六十名近くの同期が集まり、輪の広がりを感じることができました。「準備に協力できずに申し訳ありません。」「声をかけてくれて、ありがとう!」という遠方にいる同期からのメッセージも届くようになりました。

それぞれが各自の営みの中で、社会的立場や家庭での責任も重くなってきたのも事実。そんな忙しい中で、月一回の打合せがいつの間にか、楽しいひとときにも感じるようになりました。

今回のキャッチコピーは『今、ここにいる喜びがありがとう』です。事情があつて参加できない同期もいる中、参加できた喜び。再会できた喜び。また、本会を無事に開催できた喜び。お世話になった皆様への感謝など、さまざまなお思いを込めました。

これまで同窓会本部役員の皆様をはじめ、三十七期の先輩方、そして会券販売や広告掲載の御協力をいただいた多くの皆様方には、大変お世話になりました。「大変だろうけど楽しみにしているからね!」という先輩方の温かい御言葉にどれだけ励まされたことでしょうか。誌面にて失礼とは存じますが、心より感謝申し上げます。

最後になりますが、旭川北高並びに旭川北高同窓会の益々の御発展と、在校生と同窓生の皆様の一層の御健康、御活躍を祈念いたしまして、当番幹事期を代表しての挨拶とさせていただきます。



次期当番期

第50回 同窓会実行委員長

北高39期 水口 貴浩

私たちが旭川北高を卒業したのが平成元年三月。改めて考えると、もう早くも四半世紀が過ぎ去ったことになりました。そして気が付けば、来年は当番期!という時期になりました。

卒業したのが「平成元年」という一つの節目ならば、同窓会当番期も「第五十回」目と、半世紀を迎える大きな節目の年に当たる事に何年か前に気付き、何とも言えないプレッシャーを勝手に抱えております(笑)

思い起こせば私の高校生活は、(ちゃんと友達ができるだろうか?)という不安から始まったことを、今でもハッキリ覚えております。中学校の同級生で北高を受験した者は他におらず、先輩で三名在籍しているだけの状況だったので、知人の割合は皆無に等しいような状態でした。しかしながら、そこは北高に入学してきた生徒の気質の為せる技と申しますか、知

人のいない私に直ぐ声を掛けてきてくれたクラスメートがおり、それをきっかけに友人の輪が広がっていき、当初悩んでいたことが嘘のように消え去っていったことも憶えております。北高生は、勉強もスポーツも良く頑張りますが、何より人情味に溢れていると思っています。幹事長の私がいまさら、っかりしてないものですか、周りの友人が何かと気に掛けてくれ、昨年十月には札幌同窓会総会にお誘いいただき、二十四年振りの再会を果たせたり、旭川市近郊に住んでいる友人は、フェイスブック等を通して声掛けをしてあげると申し出てくれたりして、本当に友人って有り難いものだなあと痛感している今日この頃です。

ともかくにも、一年後の「第五十回」目の同窓会総会に向けて一致団結して取り組んでまいりますので、諸先輩・同窓生の皆様方どうぞ宜しくお願いいたします。